

大和名所圖會

山邊郡 城上郡
城下郡 宇陀郡

四

ル4
6321
4

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

124
6321
4

大和名所圖會卷之四

山邊郡

城上郡

宇陀郡

日錄

石上布社

石上布社

石上沈

喜殿

二階堂

白堤社

夜都伎社

在原寺

弓手山

有常田

食道

千穗宮

豐日社

龍王山城

山邊社

朝日豐前縣社

龍福寺

忘水

三島社

廣高宮

食田墓

豊日社

穴穗宮

千穗宮

小野社

桃尾櫻

中水社

布留忘水

都久冰室

夜都伎社

白堤社

山邊里

弓手山

原寺

山邊郡

城上郡

宇陀郡

日錄

石上布社

石上布社

石上沈

喜殿

二階堂

山邊里

弓手山

原寺

山邊郡

城上郡

宇陀郡

日錄

石上布社

石上布社

石上沈

喜殿

二階堂



<2000-323>

名張川
神狩寺
化田社
金昌岳寺
猪環保
二輪山
平等寺
弓月嶽
瑞離宮
玉見橋
跡見橋
猪飼
東轉橋
岩坂井
本葉宮
右河原
長谷
白權現
藤井
泊瀬城宮
遊部川
龜倉社
富都社
比賣波社
笠山
長勝寺
蓮華谷
泊瀬齊宮
葛舊蹟
恩寺
廢恩寺
嚴樞本
東田社
泊瀬山
紅葉里
泊瀬山
恩坂川
恩坂川
廢恩寺
珠城山
大御輪寺
磧城島高圓
海枯石竈
日向社
菜摘田
日向社
帶大橋
日向社
一ノ門
繩向山
志紀社
宗像社
龍谷寺
金平山
車軸龜
初瀬川
鸞
後成卿塔
通明上人墓
貫之梅
竹林寺
糸井社
二完原
宮古森
栗插原
履風里
與喜天神
定家卿塔
護法善神
安養院

名張川
神狩寺
化田社
金昌岳寺
猪環保
二輪山
平等寺
弓月嶽
瑞離宮
玉見橋
跡見橋
猪飼
東轉橋
岩坂井
本葉宮
右河原
長谷
白權現
藤井
泊瀬城宮
遊部川
龜倉社
富都社
比賣波社
笠山
長勝寺
蓮華谷
泊瀬齊宮
葛舊蹟
恩寺
廢恩寺
嚴樞本
東田社
泊瀬山
紅葉里
泊瀬山
恩坂川
恩坂川
廢恩寺
珠城山
大御輪寺
磧城島高圓
海枯石竈
日向社
菜摘田
日向社
帶大橋
日向社
一ノ門
繩向山
志紀社
宗像社
龍谷寺
金平山
車軸龜
初瀬川
鸞
後成卿塔
通明上人墓
貫之梅
竹林寺
糸井社
二完原
宮古森
栗插原
履風里
與喜天神
定家卿塔
護法善神
安養院

吾妻聖
岡田社
伊那佐
大藏寺
春日社
男坂

美牟順比社
古市社
宇陀水分社
丹生社
秋山城
白名社

日張山
深古川
阿紀山
高倉山
竹川

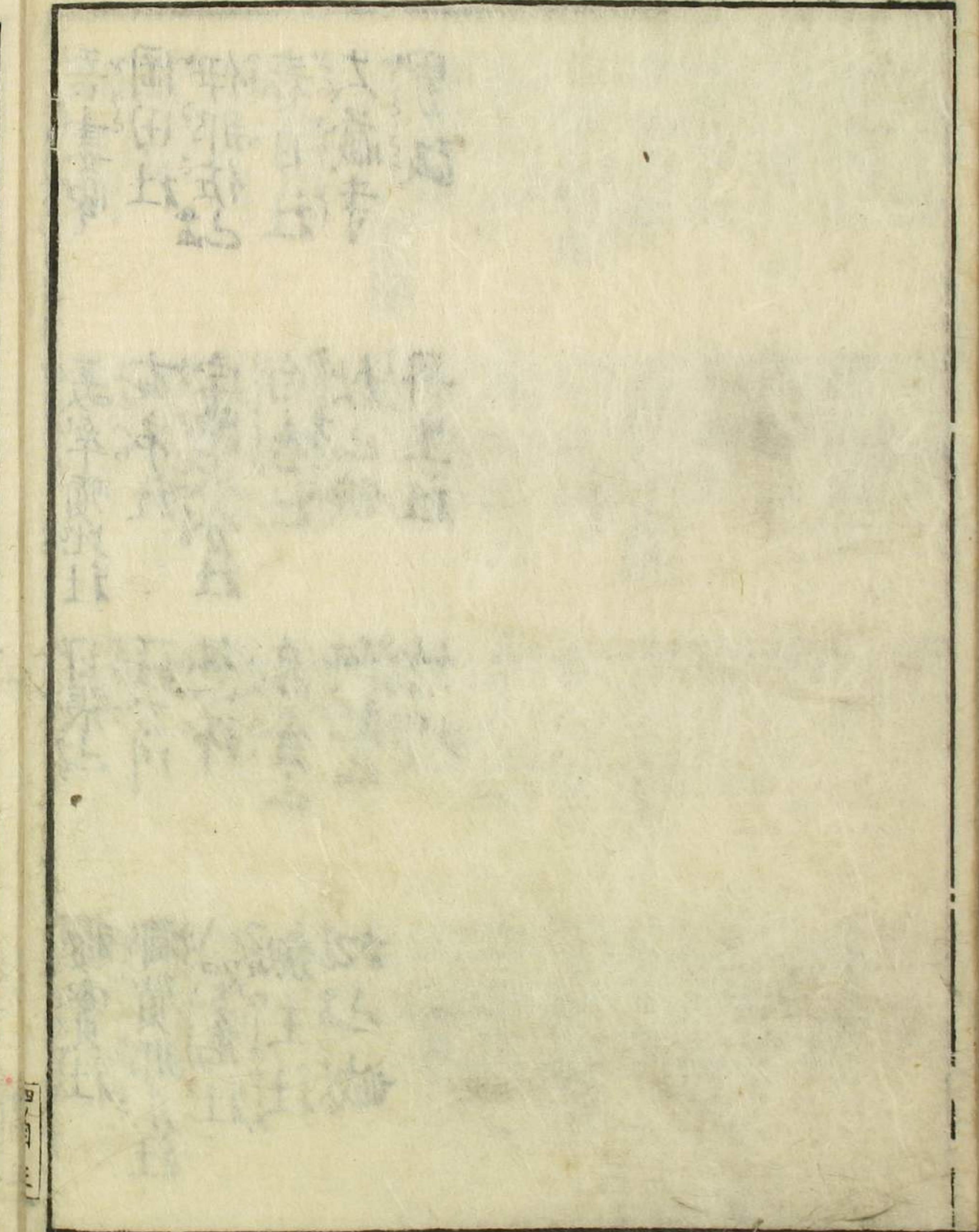
櫻實社
都賀那木社
木劍主社
木城

齊麻氣社
廬戶宮
恩智社
岐多社
香水上
小野櫻原
室生山
御井社
雄山嶽
春川
稽川
神末川

久須美社
韓人比
服部社
大和川
宇陀川
血龍石
猿穴神殿
躑躅原
桃股川
圓見嶽
履風山

吹上嶺
吸水社
法樂寺
村屋社
赤人瀆
宇陀雪
漆室嶽
室生山
門部鄉
龜山
幡社
僕社

朝雲社
吹上嶺
法鏡作社
勒負御井
墨坂
宇陀冰室
佛隆寺
檜牧川
曾爾川
唯山嶽
御杖社
源有綱宅





石上いそのかみ

小もり

いその神のまひたの宮はくもさういその神とひなまことりはるかふじよ
かうぬきくらめたらむれこひめくらふもくそつまへ。

古今古今 日光登火（拾遺）わらゆいそれ神ありよ（新古今）この小花も咲きり （忠見）
喜くれば先そうちすづぶより（後古今）けさんぶ園をりとも （能因院）
石上ありよ（續古今）人をめどあとよも宿（山口神社）葦はみたり （能因院）
石上ありよ（續古今）今ふそよびて（昔れ）昔れあと城主ニキム称（後鳥羽院）

祝田神社

田部村小もり

喜殿村

石上（後九束）十六町

二階堂

今天神と称（後拾）

吉殿村

神（後拾）小みちとておもてよせ

手山

中村東小もり龍王（万葉）

食道

山（後拾）高（後拾）谷（後拾）

名奈

セヨハナアリ（明玉）

食道

山（後拾）谷（後拾）

千塚

萬葉（後拾）小塚（後拾）

食道

山（後拾）谷（後拾）

白堤神社

西井戸堂村小もり

高宮

仁賢天皇（後九束）

穴穂宮

田村小もり安康天皇（後九束）長屋原（後九束）

二階堂（二階堂町）本尊は虚空藏菩薩（後九束）暖丈（後九束）暖丈

に造當（後九束）とぞもと初（後九束）天香久（後九束）の小表（後九束）あり

暖（後九束）の子（後九束）根芥（後九束）摘居（後九束）聖德（後九束）をすののみそらとひい（後九束）

ひうぐねとせご分かべと能半傳（後九束）

ひうぐねとせご分かべと能半傳（後九束）

ひうぐねとせご分かべと能半傳（後九束）

ひうぐねとせご分かべと能半傳（後九束）

廣

山邊神社（拾玉）

神名帳三代實錄出

高宮

仁賢天皇（後九束）

穴穂宮

田村小もり安康天皇（後九束）長屋原（後九束）

千塚

和銅三年二月藤原宮より寧樂宮（後九束）千塚（後九束）

千塚

和銅三年二月藤原宮より寧樂宮（後九束）

千塚

千塚（後九束）

千塚

千塚（後九束）千塚（後九束）

夜都伎神社

神名帳三代實錄出

流上邪虛室藏

如意弘仁寺

當山隱城の

天皇の勅額寺

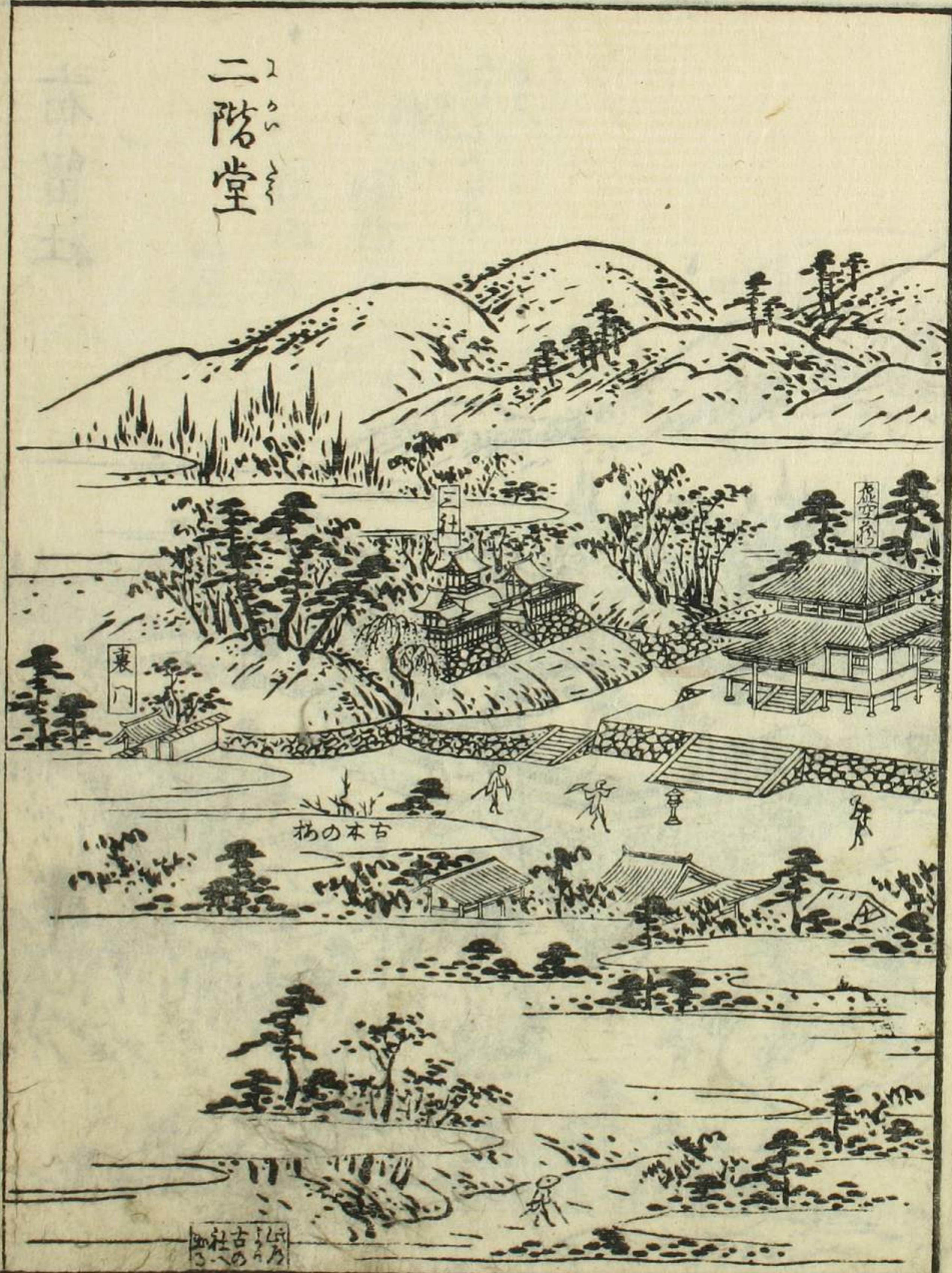
日本二虛空藏

弘仁五年

造立



二階堂



布留社



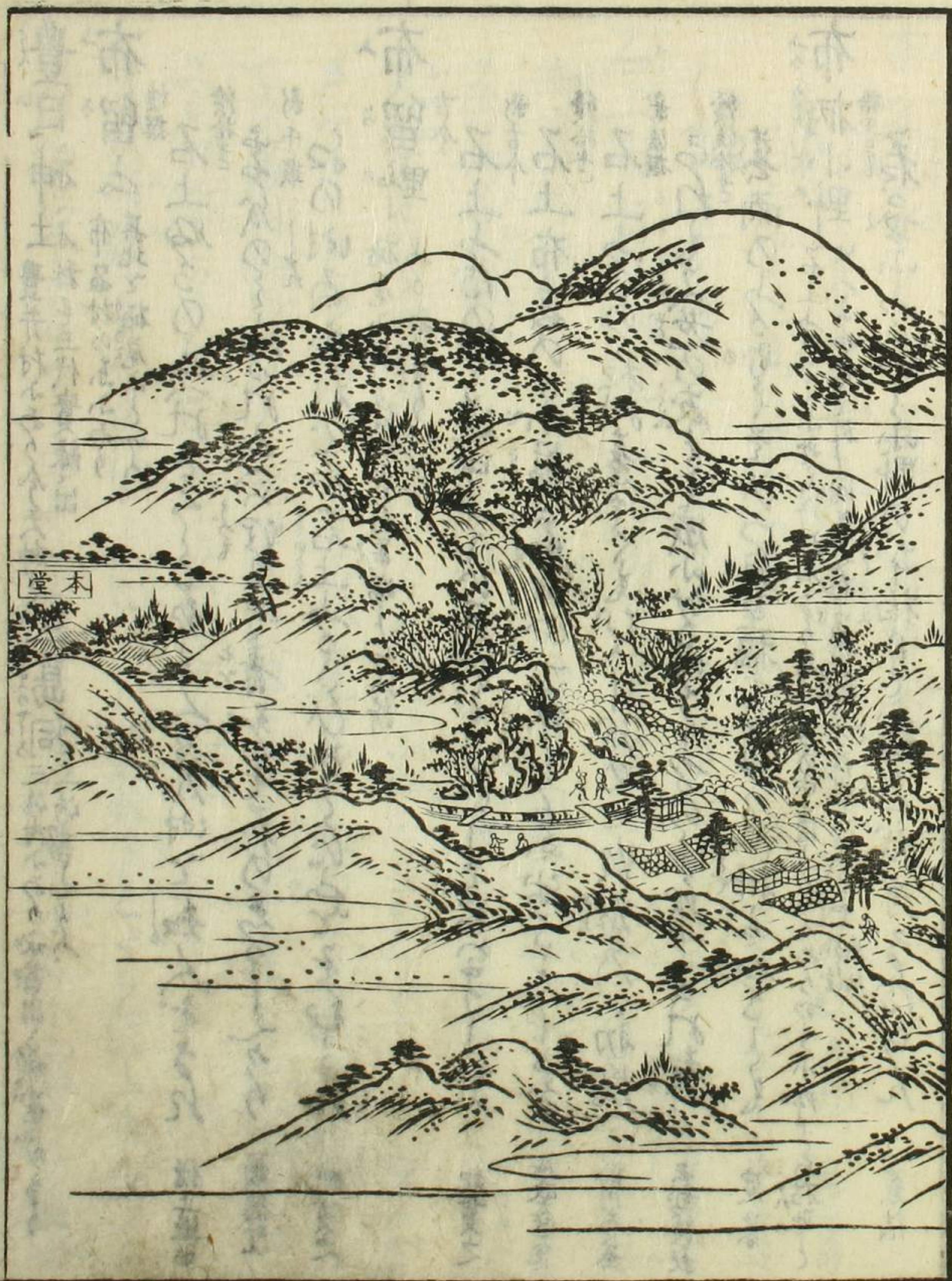
本留社



ちゆ
ちゆ
ちゆ
松の音
沾徳

布留瀧

桃尾瀧



豊日神社

豊井村三浦村小守今大神と
称を三代實源出

三島祠三浦郡と云ふ

布

留ム

布留村の小守あり
其北を越尾山といひ

後撰

石上ゆうのふれさく花うへん時と知人ぞうん

傍正遍昭

後撰吉代のとすれむへばとて青葉と花のちうへく

順德院

新千載おの時ゑあれどや石上ゆうひあとふとぞもん

紀貫之

布

留ム

布留野越尾小里道の京阪馬場といひ

古今

石上布の中道中にに石上ゆうと石上ゆうと石上ゆうと石上ゆう

紀貫之

新古今石上布の小藤あじて一夜もうち小藤あじてか

備政堅曾

新後撰石上ゆうの松れまくもむくのこに放乃初風

順德院

新後撰されも又老の友とも成小けぼくすのさへくられ草

定家

新後撰喜雨のゆうせきとそのほ草摘てゆくん社をゆくとも

義定

布

留ム

布留小野石上ゆう小也も併れ名うり石上ゆうの中道もよしらか小也とく枯れの

新後撰小野石上ゆう小也も併れ名うり石上ゆうの中道もよしらか小也とく枯れ

新後撰小野石上ゆう小也も併れ名うり石上ゆうの中道もよしらか小也とく枯れ

小野石上ゆう小也も併れ名うり石上ゆうの中道もよしらか小也とく枯れ

義定

新後撰石上づれどうもよくよくよくよくよく月もいくよう消ゆくん

新後撰石上づれどうもよくよくよくよくよく月もいくよう消ゆくん

新後撰石上づれどうもよくよくよくよくよく月もいくよう消ゆくん

義定

布

留ム

布留川例祭九月十五日

布留高橋

新後撰石上づれどうもよくよくよくよくよく月もいくよう消ゆくん

新後撰石上づれどうもよくよくよくよくよく月もいくよう消ゆくん

新後撰石上づれどうもよくよくよくよくよく月もいくよう消ゆくん

新後撰石上づれどうもよくよくよくよくよく月もいくよう消ゆくん

新後撰石上づれどうもよくよくよくよくよく月もいくよう消ゆくん

新後撰石上づれどうもよくよくよくよくよく月もいくよう消ゆくん

義定

布

留ム

布留川例祭九月十五日

布留高橋

新後撰石上づれどうもよくよくよくよくよく月もいくよう消ゆくん

新後撰石上づれどうもよくよくよくよくよく月もいくよう消ゆくん

新後撰石上づれどうもよくよくよくよくよく月もいくよう消ゆくん

新後撰石上づれどうもよくよくよくよくよく月もいくよう消ゆくん

新後撰石上づれどうもよくよくよくよくよく月もいくよう消ゆくん

新後撰石上づれどうもよくよくよくよくよく月もいくよう消ゆくん

義定

布

留ム

布留川例祭九月十五日

布留高橋

新後撰石上づれどうもよくよくよくよくよく月もいくよう消ゆくん

新後撰石上づれどうもよくよくよくよくよく月もいくよう消ゆくん

新後撰石上づれどうもよくよくよくよくよく月もいくよう消ゆくん

新後撰石上づれどうもよくよくよくよくよく月もいくよう消ゆくん

新後撰石上づれどうもよくよくよくよくよく月もいくよう消ゆくん

新後撰石上づれどうもよくよくよくよくよく月もいくよう消ゆくん

義定

布

留ム

布留川例祭九月十五日

布留高橋

新後撰石上づれどうもよくよくよくよくよく月もいくよう消ゆくん

新後撰石上づれどうもよくよくよくよくよく月もいくよう消ゆくん

新後撰石上づれどうもよくよくよくよくよく月もいくよう消ゆくん

新後撰石上づれどうもよくよくよくよくよく月もいくよう消ゆくん

新後撰石上づれどうもよくよくよくよくよく月もいくよう消ゆくん

新後撰石上づれどうもよくよくよくよくよく月もいくよう消ゆくん

義定

布次作ありたりその布にすむれく劍のどはりより神と祠く
布安の兩神と号すもち板を布安の小山にあらとせかとて盛裏
御鎮座へ皇千代崇神天皇の御宇より伊香色雄令大刀記
大社國社がさざら八十万群神がさざれ大和國山毛郡石上ものの邑ア
うのへき其神十種の瑞寶ハ高皇產靈亞尊すより鏡速日尊すより
其子味間見令小あくそれより神武天皇トノヒおもろく候ニ并齊石上
の大神と号し國家あぐわ祀マタリ

神庫

正殿の傍小ありけ池又方丈の櫓あり神肴々々
索ハシマ御小河の庭布にとくあり一劍ハサウエ一袋カサガシ多層の外まく出一持す
又ハシマ後ハシマとくあり神ハシマ小護摩ハシマ分派ハシマ宝藏ハシマの後ハシマ負出ハシマ一腰ハシマの
肩ハシマ小うけハシマひめハシマいわく内山永久寺桃尾山龍福寺春嶽村の傍ハシマ
侶ハシマにあらうくあらうと我ハシマ

新

初春の彦神祭ハシマはめく内山の雨の神ハシマ神ハシマ 李天皇

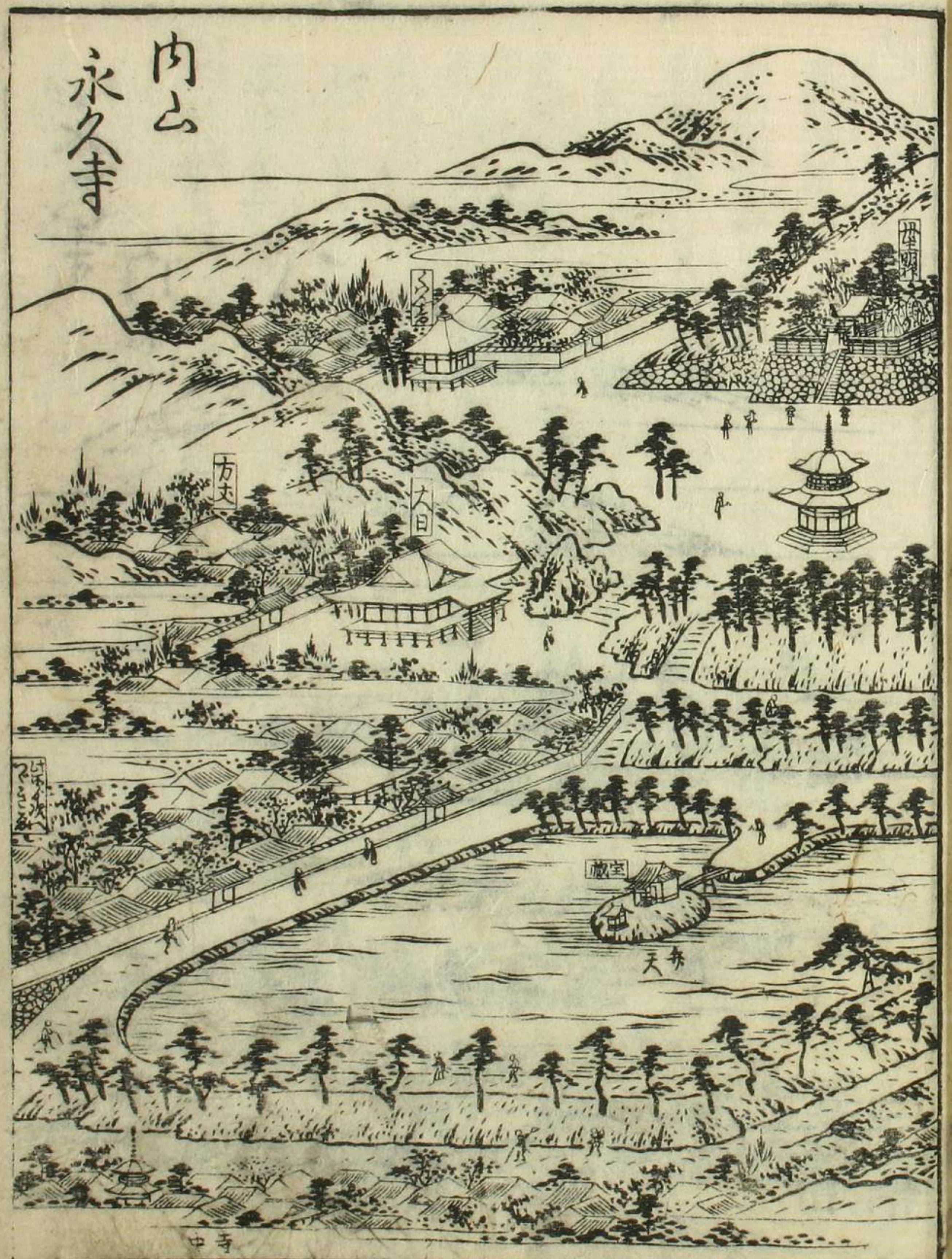
長方
中官廻馬

宮居セーその始も石上ハシマの社と人やひきん
ハシマ定家
五月雨の下れ神ハシマとざまよまく名の内郭公ハシマか
布留瀧ハシマ桃尾山龍福寺ハシマ布留山のハシマ基菩薩の開基ハシマくいあハシマ伽藍
穿ハシマく鶴ハシマ寒聲月ハシマ溝ハシマ走ハシマ絶系窮ハシマとキハシマて廬山の
銀ハシマ二千尺ハシマともひつべ

僕古今
縹拾

後嵯峨院

桃尾山龍福寺ハシマ布留山のハシマ基菩薩の開基ハシマくいあハシマ伽藍
嚴重ハシマなり今頃ハシマ變して僅小存ハシマ本堂小十一面觀音と安^{ハシマ}傍ハシマ
阿弥陀堂十二所權現春日祠あり是鎮守の神ハシマ其傍小鐘樓
ありとく子院僧坊十六所ありとく
都介冰室ハシマ氷室ハシマ水田村ハシマあり隣村福集ハシマ日本紀出
下部神社ハシマ吐ハシマ村ハシマ出ハシマ都祁水分神社ハシマ神名帳出
青葉瀧ハシマ長瀬村ハシマあり飛泉教十夫俗ハシマ雄瀧ハシマとく下流に瀧あり雌瀧ハシマとくよ
其高ハシマ較丈ハシマ風急奇勝ハシマあり



永久寺

門前



内山金剛乘院永久寺山に村の東にあり。金剛院の跡。頃より佛基釋亮慧真言傳法の人にして五鉢の形のと小一中央山峰あり。され内山と号せり。永久年中の多創され、永久寺と名附る。宗首は真言みどりく本堂小阿弥陀佛と本尊とて奥院の不動明王。日本三軀の其一なり。觀音堂千軀佛堂二層塔大師堂真言堂よも大日如來。安井額へ有。院の表參之鎮守の社。清瀧權現岩上明神長尾天神。勸請をえ。元弘年中笠置城没落の時後醍醐天皇志のびく入御。跡へ遺跡本堂の乾小あり。又塔宮も内山よほほれぬ。其外諸堂魏々子院四十七坊あり。とあん宗派と醍醐金剛院の法流。とく當山派の法頭あり。

良因寺石上布留村。一名石上寺。又名良峯寺。今霄藥師堂とゆふ。天長年中守法師住持と共に後醍醐天皇の御宿と。良峯といふ。素性法師もさへある。その法師の石塔もあらと爲双瓶小塔なり。

後撰集石にて御まひすく日の暮れと表ゆくすかりの處

ひそひそとてかはる

石の上に旅宿がそれとてとむ一昔の夜伏就小僧あん

小寺小町

五二一

世故そむく暮の夜を只一キテうそひやうそひき二人称ん

相模家集

らむえのまに本くこそふ般若布多の社のねあふぞアられ

大和大國鬼社

新泉村延喜式曰大和坐

大國鬼神社三座

并名神大月次

相嘗新嘗文德實錄曰嘉祥三年十月從二位公授

く三代實錄曰貞觀元年

從一位公授く近郷八村の氏神

例祭四月朔日

拝大和大國鬼神ハ大照大神とニ神あひすく天皇大殿の内坐すモ
タリのふぞけ其後崇神天皇の御宇神の勢伏せとと源とともに
往々に安々に天照大神ハ豊鉢入能令伏して倭笠蓬邑の磯堅
神籬伏建くはづくらかく又日本大國鬼神伏渟名城入能令伏
くはづくらかくに命の變おちきこち體ではつるゆかす
ウズ崇神天皇より國中あがち疾疫一死失もの半にひん

トクノ同七年天皇はふり伏しきをもひとはふ体迹を日百襲姫命
小人物主神著ひく告わりてふ御差小秋ハ是人物主の神なり
我聞太田々根ふ伏く我とすくへりよかくありてよりた田々根
子余伏神主トス市砾長尾市伏倭國鬼神れ神主トス
らあらかじ一より後天下太平とぞありぬ日本

來遠寺

多田莊村本尊菩薩導大師の遺像ハ則大師

多田莊村

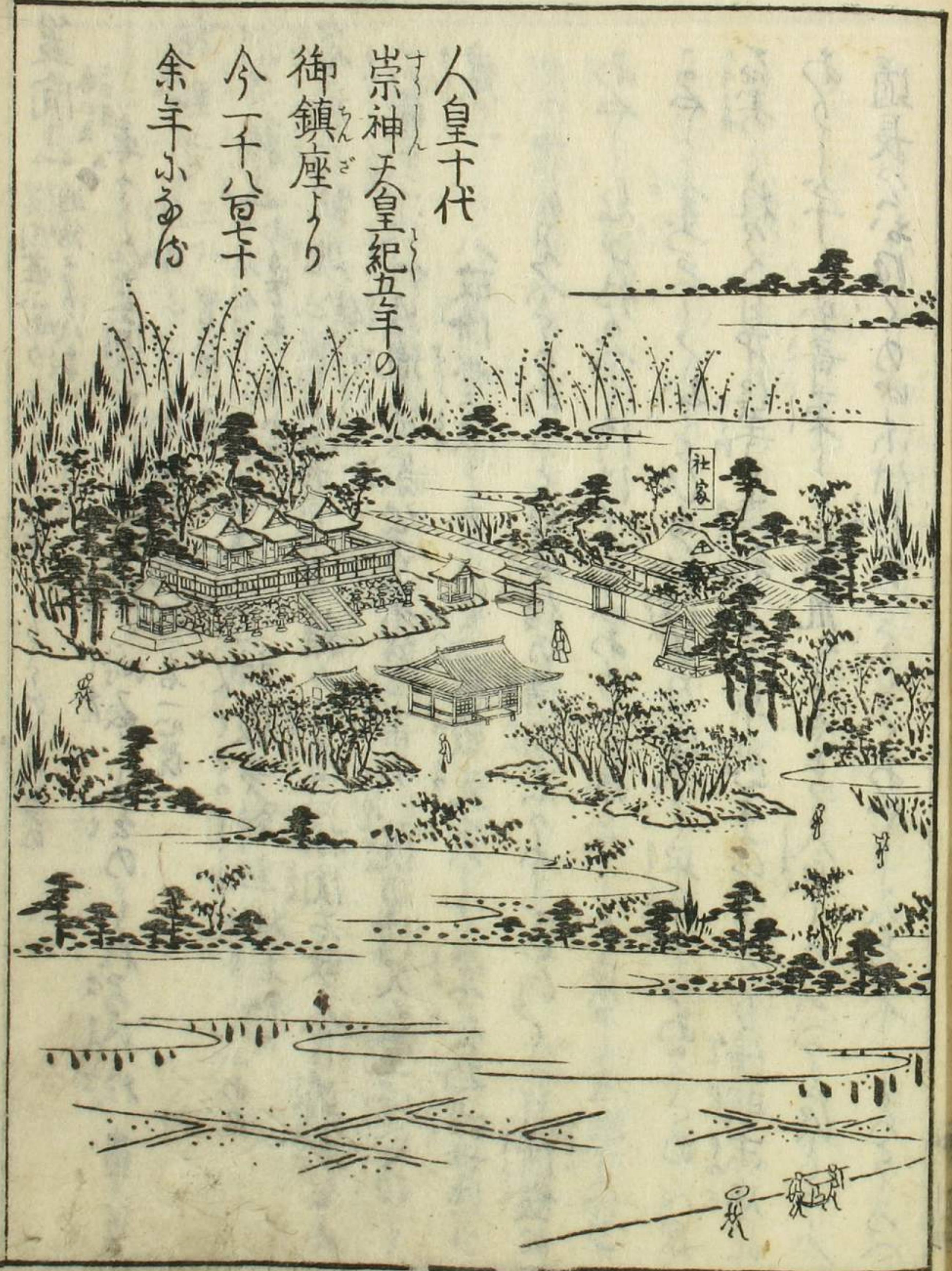
紀

カヒく入滅八十年の後來朝あり天平宝字七年號紫雲と
の浦小笠ひく其地の極乐寺とし余モとさりて翌年伏井
大和國十市郡伏井の二光寺にて作り一建暦元年の乱逆
小笠アモク多田の来遠まにひきまわんかの遺像或時傍と現
僧化て本像とうり付われ瑞像伏若付あひく身ありくうりそん
カヒく其事異うるの卷かぞるに追かーと寺記小笠アモク
名張川

伊賀より源と春日社十三村の氏神也

ふき御井すま未持

大和神社



笠間山笠間莊小ありあり五里もくらうてのと伊賀の通称ありハ雲佛抄より出

七百首春ふる

立よしん笠間の里れらうされそ附ゑ一玄のそれら佛社 痛言道

神野寺ト神那ふふあり法性ふと号に一名一心院

波多横ト三代實祿より出

名產白甜瓜ト一ノ仲峯ふ村小神波多神社仲峯村小ありあり方系集小出

大藏冠十二代後胤兼家公の家塔上東門院の佛父之堂塔おほく

建立して故佛堂殿と号す在世の威光よく榮花也活世經子

この書に記すよりあらとて安倍の清明志すててひの日佛飯に

あやしくなゆ候べ佛はくみありとく候べとくはやす殿下仰り

よそとまづくくおもひかひ件の日小成く早朝りあゆとの人眾

石築すれど自中に至く南都より早丸をすくせり清明末座に

ありてすく出奇事とやけ丸くとくを食へりかくへくはとつ

道長公おほくの中小けあたうどりくあやくみあくべとくそく

くとくとくは宣ア勧修僧正上座小居がく殊般がくり兜次帽(らき)れ

凡くもすらに踊るよろこ大醫者雅一針次りく凡にさく則ち

らうじ頼光赤席(あかぢ)すく坐くを刀次抜き三つ小切をうけ凡の中ア

小蛇ありとく切てぬされね殿下大死にうどひ晴明かうてあ北

眼次刺とく勸せば頼光武勇の長人さればうそむに切よも首よ

あくろ足みか自狂の妙うそりとそのく縁宿つりタマヒ

他田坐天照御鬼神社城上郡左田村小あり神名帳三代實祿より出

景行天皇陵柳本村小あり陵考曰天之墓よりうけふ上總村小あり又ふを道上

竈馬橋傍海記曰釜の口れ東高嶺へテ塊う萬頂上六十市云部や浦を忠の城跡あり

スカウロゴトモ謡曲あり大和の名寄(よし)入其句よま海へうたまふとあくわ

水口神社天王と称す

崇神天皇陵渋谷村小あり字王之塚とす又宇和木利ふともり

笠間山笠間莊小ありあり五里もくらうてのと伊賀の通称ありハ雲佛抄より出

七百首春ふる

立よしん笠間の里れらうされそ附ゑ一玄のそれら佛社 痛言道

神野寺ト神那ふふあり法性ふと号に一名一心院

波多横ト三代實祿より出

名產白甜瓜ト一ノ仲峯ふ村小神波多神社仲峯村小ありあり方系集小出

大藏冠十二代後胤兼家公の家塔上東門院の佛父之堂塔おほく

建立して故佛堂殿と号す在世の威光よく榮花也活世經子

この書に記すよりあらとて安倍の清明志すててひの日佛飯に

あやしくなゆ候べ佛はくみありとく候べとくはやす殿下仰り

よそとまづくくおもひかひ件の日小成く早朝りあゆとの人眾

石築すれど自中に至く南都より早丸をすくせり清明末座に

ありてすく出奇事とやけ丸くとくを食へりかくへくはとつ

道長公おほくの中小けあたうどりくあやくみあくべとくそく

くとくとくは宣ア勧修僧正上座小居がく殊般がくり兜次帽(らき)れ

凡くもすらに踊るよろこ大醫者雅一針次りく凡にさく則ち

らうじ頼光赤席(あかぢ)すく坐くを刀次抜き三つ小切をうけ凡の中ア

小蛇ありとく切てぬされね殿下大死にうどひ晴明かうてあ北

眼次刺とく勸せば頼光武勇の長人さればうそむに切よも首よ

あくろ足みか自狂の妙うそりとそのく縁宿つりタマヒ

他田坐天照御鬼神社城上郡左田村小あり神名帳三代實祿より出

景行天皇陵柳本村小あり陵考曰天之墓よりうけふ上總村小あり又ふを道上

竈馬橋傍海記曰釜の口れ東高嶺へテ塊う萬頂上六十市云部や浦を忠の城跡あり

スカウロゴトモ謡曲あり大和の名寄(よし)入其句よま海へうたまふとあくわ

ろの君にそい称のよまくとくそくへり

金口山長岳寺す金剛身院柳本の東弘法大師の開祖にて本尊す
虛空藏菩薩之本堂の傍小穴師の影堂ありう寶池ありもの
不ゆきりに愛深堂の中より傍坊十所ありく西のよ頃小古城乃

めあり其蕉に千塚とつあり我死のもの以瘞む所とく

穴師兵主神社

穴師村の東弓月嵩小あり。神名帳三代實錄小出

神代のむく天皇

穴師兵主神社

穴師村の東弓月嵩小あり。神名帳三代實錄小出

奈所の神代のむく天皇

穴師兵主神社

穴師村の東弓月嵩小あり。神名帳三代實錄小出

天照大神の靈

穴師兵主神社

穴師村の東弓月嵩小あり。神名帳三代實錄小出

天照大神と天懸神と神名帳を一の鏡の天照太神

舊事記

痛足山延喜式穴師

卷向山もて御向のあかーと御てけくらふ頂小

市領の城也あり後して御尾の嶺の水上より

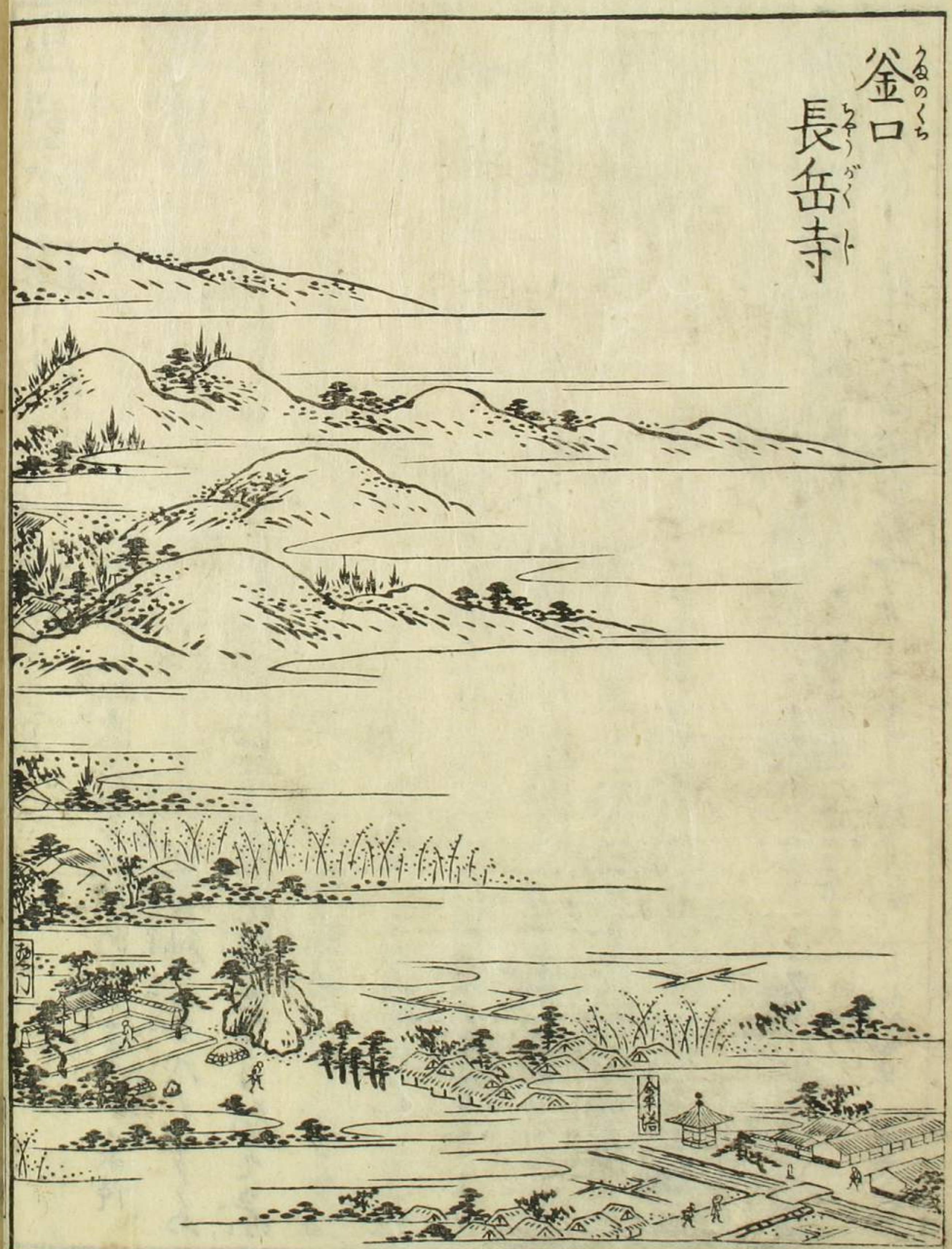
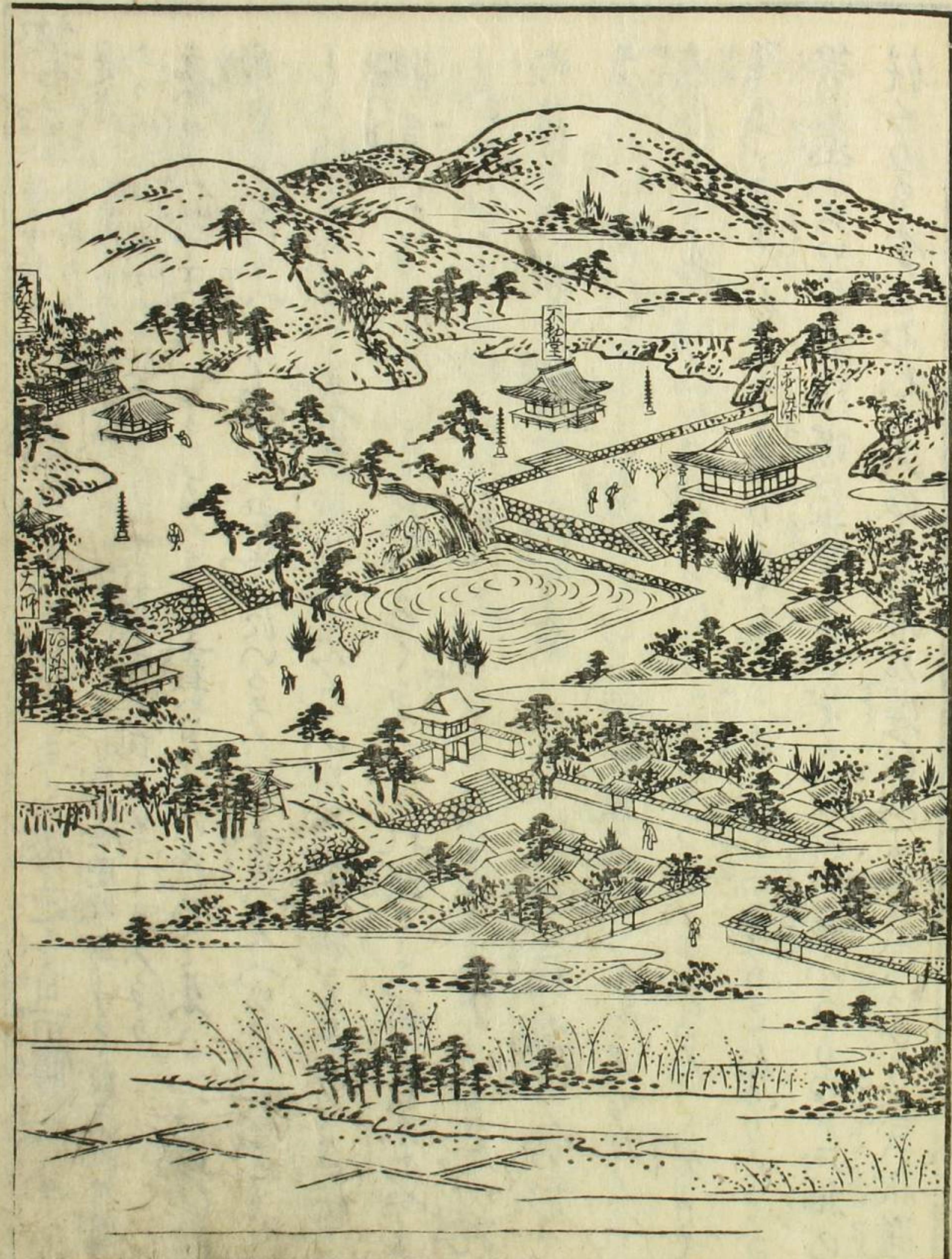
舊事記

風ひの松木の附雨也れ

日本紀

あすは嘗てかは村言

基俊



箸墓

箸中村

小ありむる崇神天皇紀十年小倭迹々自百襲

姫命是孝元天皇の皇女御崇神天皇の姑内親王より質性聰明みく能未然少識

あはれ和珥童女の歌が聞く武埴安彦の謀叛次察りかへり

夜々人物主神かよひきひへと書へ又へば夜のまきをせかひれ

姫皇女かのまひりゆ君常にいふねれを書へ又へば夜のまきをせかひれ

とくゆりすゝく義蘿威像とスルの供物大神とあとの供の

神

櫛司にわうんかくもにきどろく半ふうれ姫うろのうち小あや
とおもひふうくめらぶやから櫛司とアノのとぶうりくと小蛇
ありけアと夜の絆のや一則あと癡をこよの時大神忽小人の形と
うり咲志のびどくと我にそらでせの祇又はふちらさんとく
太虛とぬと御諸ふにのりあひて姫とそやしくありくと箸りそ
陰伏つとく余かくうりたゞ則大市小葬サマタリこねり人ふ
箸奉とひのうりけ塚が書と人々ぞりく染は夜小うりぬとべ神の
はくりうきわれぞ大坂との石が運びふうり墓すぐ人民相踵

三輪町

倭國記曰箸中より十二町十間町の入口東方の二塙又明神の名居

立けき茶屋居に入く乃不北の方に大御輪寺内ア若宮

おつりナム所へ至る者法師の開基共ひぐに所供所三面の大黒天あり明神
馬樓ノあ殿あり社をかくと公社とあると夜うけ松らうりかけくふとりよ松あり
南より平等寺また二塙の町より素麺次多く製へく名前とく
三輪山一名三諸山又神並山として二塙町のひよりあり祠株採桑松曰三室神南火
まこと諸山ハ孤岩を峻拔し林木青葱よりあらわが眺小群山小異之
山頂小不動藥師地藏の二石の像あり奥の不動といふ又弥勒石像

弥勒谷にあり高六尺

味酒れ之縄の祝のふくに松のわふれらくぬくよし

長屋王

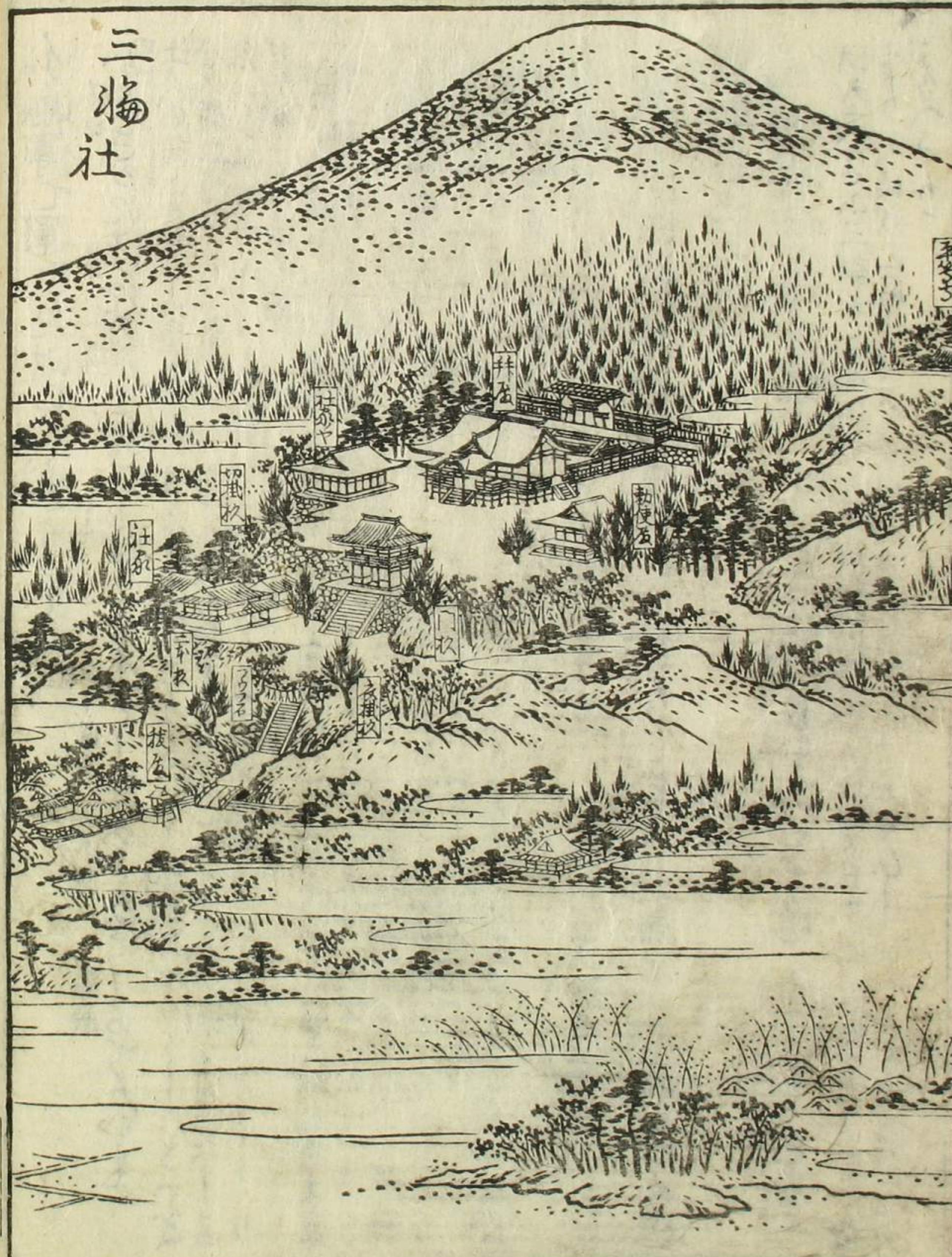
山文字小三訓あり味酒味酒味はる崇神帝の御製日本紀のお公體とある
うり又酒次ニ縄とりへり山神のほくらも下らひゆくとぞ祠株采桑松

又へり

大之瀬
若宮



三瀬社



三編一色居

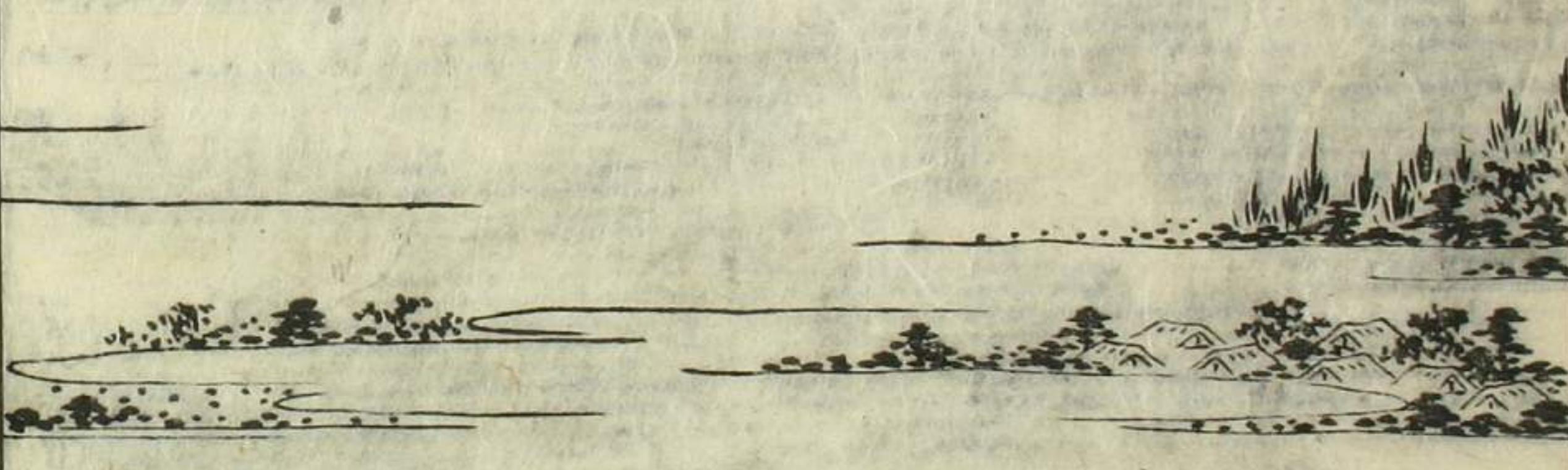
續後撰

みやめり
みぬのねむる
ちかく

神代の
あす

成らん

お家



長者屋敷

續人名記

古吟

我居

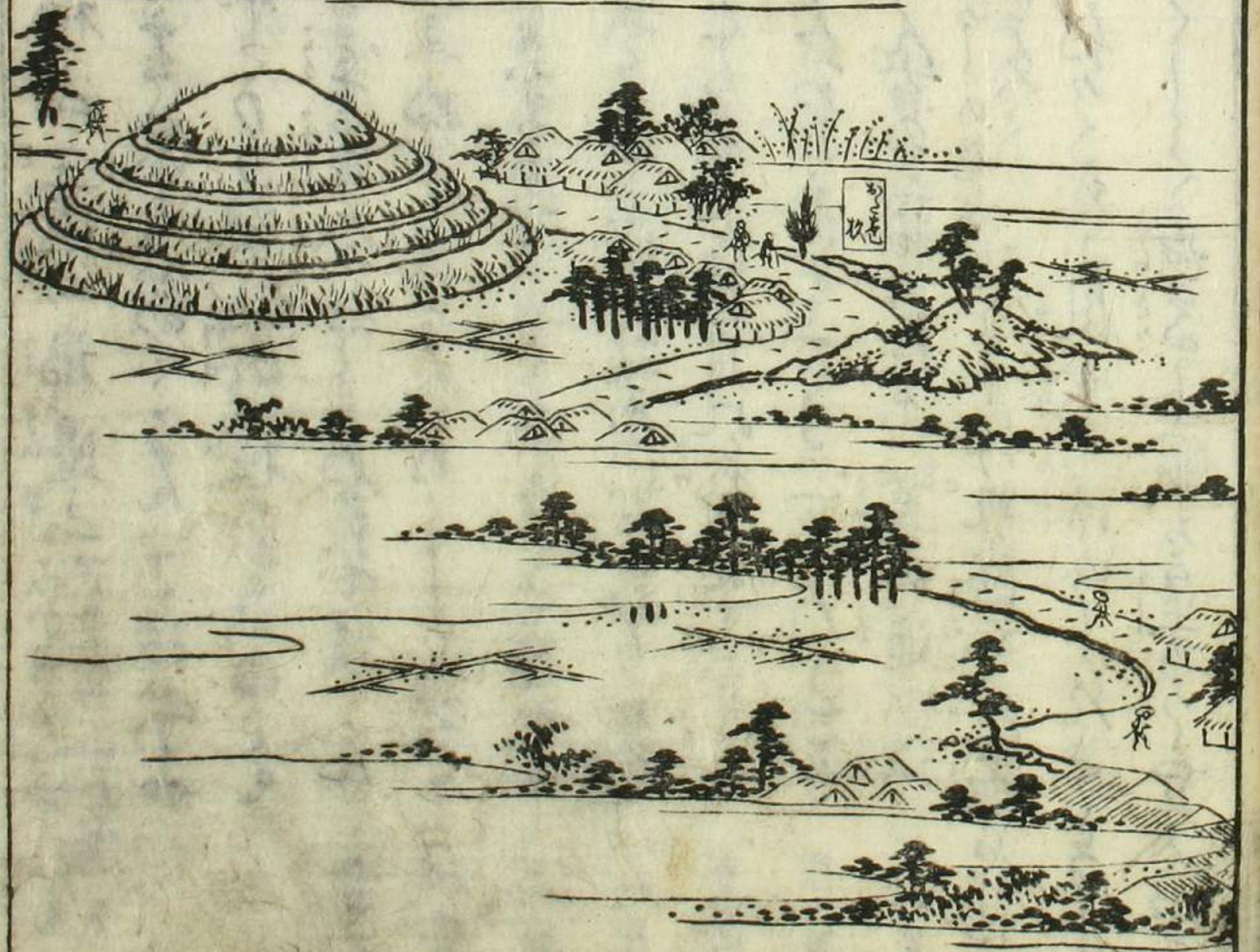
之痛のゆきと

亥ノ月

そひ

秋たての

門



神岳

二病と同ふより 神山 三面山 神邊山 みふ同ふといつとも
万葉

二病山が志らしかどもさきとふもんあくさんかくはよすや

二病はく二病山をこりての初櫻は桜木かもやゆるも

二病山が志らしかどもさきとふもんあくさんかくはよすや

二病のいふはう年ぬとねも人わくと只そも

二病のひきうれ松の有あるとて人々きて皆せそ

いみ小ありさんも然とや二病の桜木にありさん

古里の三わのうとうひととての月れ新月とも

まこと松れまくも見とみが庭そそごニ病乃ふ本

いく年のうくちアタシ古の二病の桜木の通ひ路 定家

下松の病のとくに、松又もうの松木 もう伊勢國奄藝郡に侍り

夕もん涼ふ小入く麻が竹たる松小風吹雨落

まほりのあり形黒くく長む一眼と星のうやくが如

獵師アサヒされば称らゆく一矢射當アサヒたり矢と脣ふうそそのの走り
逃れ血のあとにつなぐるよしとて遙アラカミか一離アラカミれく跡中
小塚あり其中に匿れね塚の下アシ小神女アシタカありく獵師アサヒのさきあ
則アシタカテ小篠アシタカ木アシタカもげくもみすれを神女アシタカとてゆく
汝アシタカが射アシタカきの下アシ塚アシタカ年々アシタカともし鬼うりよとけ鬼アシタカとアシタカれ
手アシタカ來け塚アシタカに毛アシタカり汝アシタカ鬼アシタカ射殺アシタカとアシタカば獵師アサヒそめやアシタカり
塚アシタカうり塚アシタカの下アシ入アシタカり灰アシタカ木アシタカ燒殺アシタカとアシタカり其後アシタカは神女アシタカ具アシタカ
家アシタカ小アシタカり相住アシタカこととアシタカとせするを獵師富アシタカとく見ひくらば齊アシタカ
やくりは男アシタカ小アシタカりあはれながりそのまた女アシタカうせぬ波アシタカもくそゑゆ
りどり方アシタカ方アシタカ又アシタカ聞アシタカもくせぬいよく非アシタカもくけ女アシタカ常アシタカ
わくりうら西アシタカ北アシタカとアシタカ病アシタカのゆりと松アシタカ木アシタカ門アシタカとくらむすら是アシタカなりて
大和國アシタカ小アシタカりてアシタカ病アシタカの神アシタカの社アシタカ小アシタカ參アシタカくアシタカ女アシタカあへアシタカ金アシタカとアシタカ伏アシタカ前アシタカ
それを社アシタカ拂アシタカ戸アシタカと開アシタカくとくかく四アシタカとくらひ男アシタカの志アシタカの切アシタカるうと

感スルとく小松スギ神ミコトにあなりトクシナリあれハシメテその神スル
をアハハ伊勢國イセあらんの郡ハセのアベリえそんよりもよハシメテの松スギとアハハ

うら詫ミタマ小日鬼ヒコニ神ミコトとアハハとアハハこれアハハ

人ヒトそり傷ハビもアハハの病イモトの松スギの枝ハシメテタクアハハの神ミコト 並圓

後漢書

後漢書

皇居内侍

下シタとの名ナミの松スギの枝ハシメテ少ハシメテ君ヒムカに病イモトの木キ 本ヒムカ 素盞嗚食

後漢書

後漢書

皇居内侍

かハシメテ木キ乃ハシメテ少ハシメテ君ヒムカに病イモトの木キ 枝ハシメテ少ハシメテ君ヒムカに病イモトの木キ 本ヒムカ 素盞嗚食

後漢書

後漢書

皇居内侍

三輪社ミツウラノミコト 神名ミコトノナミ 大神大物主神社ミツウラノミコトノミコト 名神ミコト 大月次相嘗新嘗三代實錄曰貞觀元年正月

大己貴命平定萬國功績既成仍營建官殿於日本國之三諸山就而居住此大三輪之神也社傍有二株老梅名曰驗柳ミツウラノミコトノミコト 素盞嗚尊ミツウラノミコトの御ミツウラノミコトみゆくミツウラノミコト 嫦后ミツウラノミコト須努理姫ミツウラノミコト 醫道の祖神ミツウラノミコト

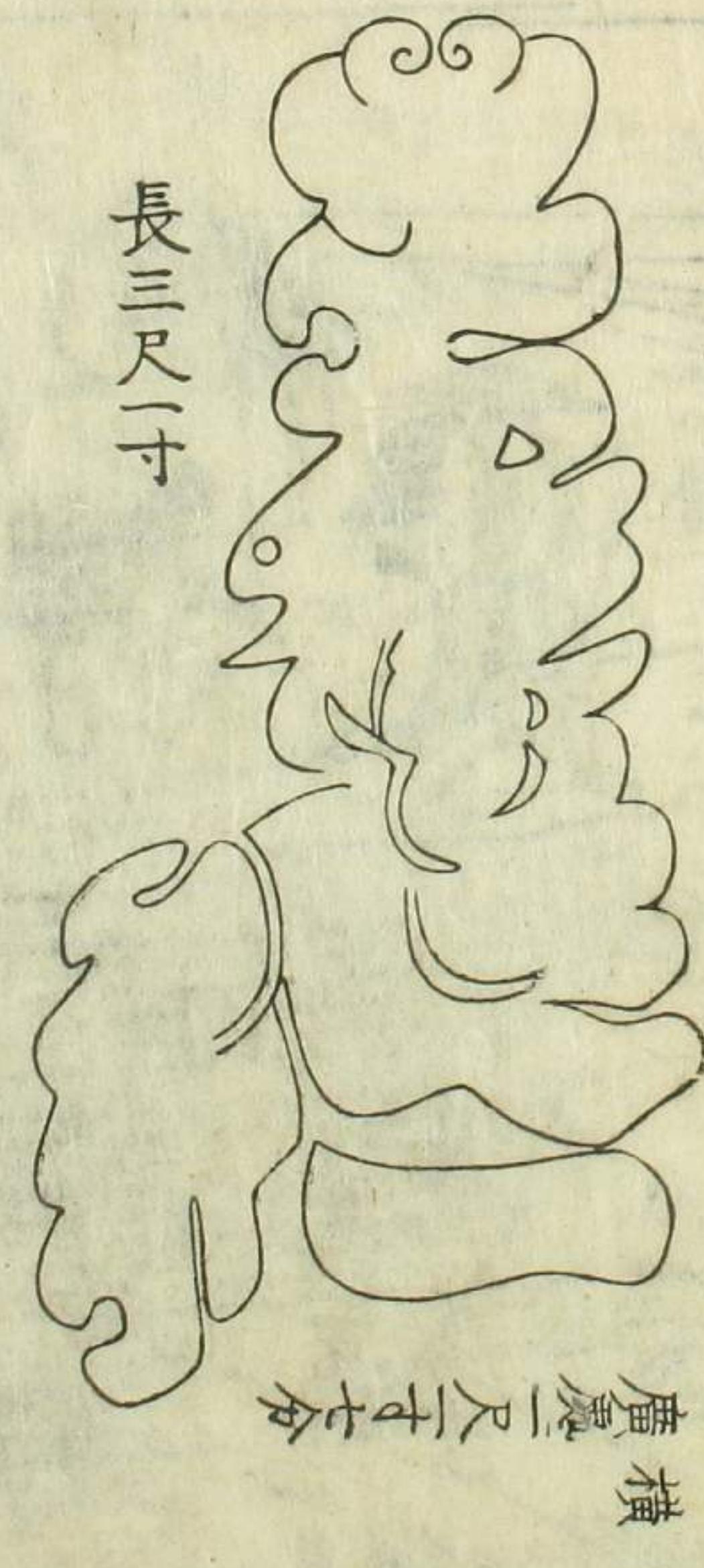
後漢書

後漢書

皇居内侍

綾帽社 本社 二町南小あり 碑 城宮 本社 三町南天照大神始 御鎮座の所
度 倭姬 樓門 本社の樓門 白木造り 月相 樓門の右の脇に大松
世紀小あり 腰 小門宇の神 右の方に太木の枝あり 實僧都の妻 門相 二本あり下の門枝
衣掛帽 衣がうけぬけ断きり 右の方に太木の枝あり 實僧都の妻 神形向
二卒帽 一株 寶永年中大風の時 御新櫓 武市原長者の板戸社 左の脇小
駒留石 出仕あり下馬石 四月卯の日を奉事に社司所少々 大櫓 毎年正月十一日夜神事あり
綱掛松 毎年正月九日淺津の綱 旗建芝 旗七本立 大櫓の旗を立てる
惠義須社 二ニ瀬の町小あり每歲正月 沈田 二ニ瀬の七ツ池の一 湖
大鳥居の額 六日小初市 大鳥居 大鳥居の右小あり今も 榜 長谷川に断に瀬と一時湖
神代の文字 大神大物主 あり今ハ 菜摘田 大鳥居の右小あり 祓 祓處 毎年六月晦日社人
云々 あり今ハ 菜摘田 大鳥居の右小あり 祓處の右小あり 大鳥居 祓處 約十石
間 あり若宮社 二の鳥居より町小小あり古田を根子の今 大鳥居 若宮の
大 神 大 物 主 あり今ハ 額 あり黙 等

御 より世小叔孫通 故 小志のあこび
觀鷺百譚 云神代の文字 と 二ニ瀬大明神の額 と あり今ハ
興福寺 の庫中 小在今 に小書 藤 乙石 碑 の 字 と 是



長三尺一寸

日向社 二ニ瀬の嶺小あり今高官と称し 狹井溪 水源を二ニ瀬より狹井寺の
激小入 神名帳三代實祿等小出 祭 祭 遠り著中に至り縄向
綱 城 神社 二ニ瀬村小あり 平等寺 三瀬村小あり本堂護摩堂祖師堂
珠 城 山 縄向ふの西に小き孤と 鐵 樓護法祠傍舍十二宇あり
里 人のつゝて岩絵の道 たすのふへ舌すりに 實伊

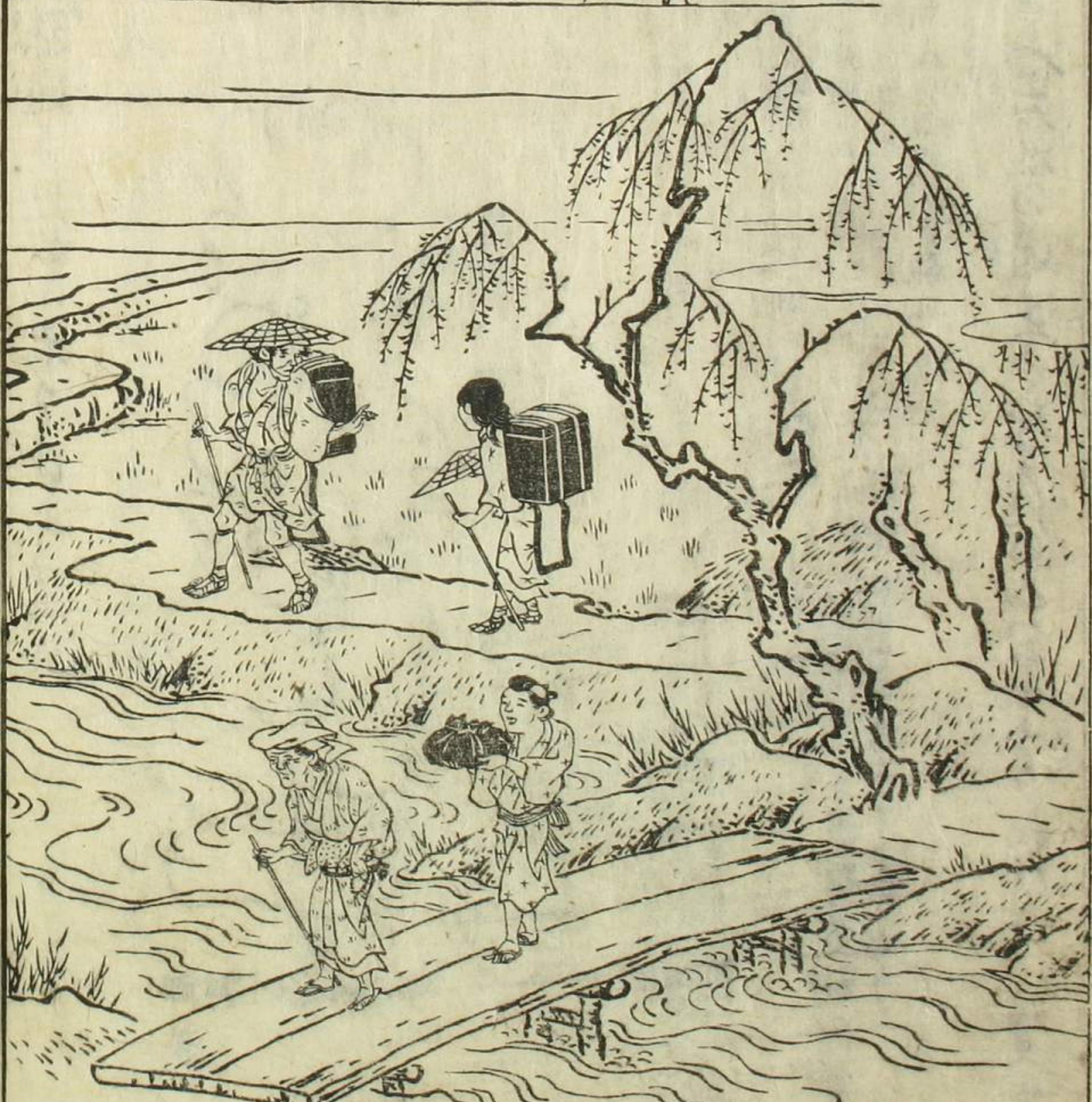
玄賓菴

發公集曰あらの帝
御時大傍都にふ
ちひタツハズレ
漢子

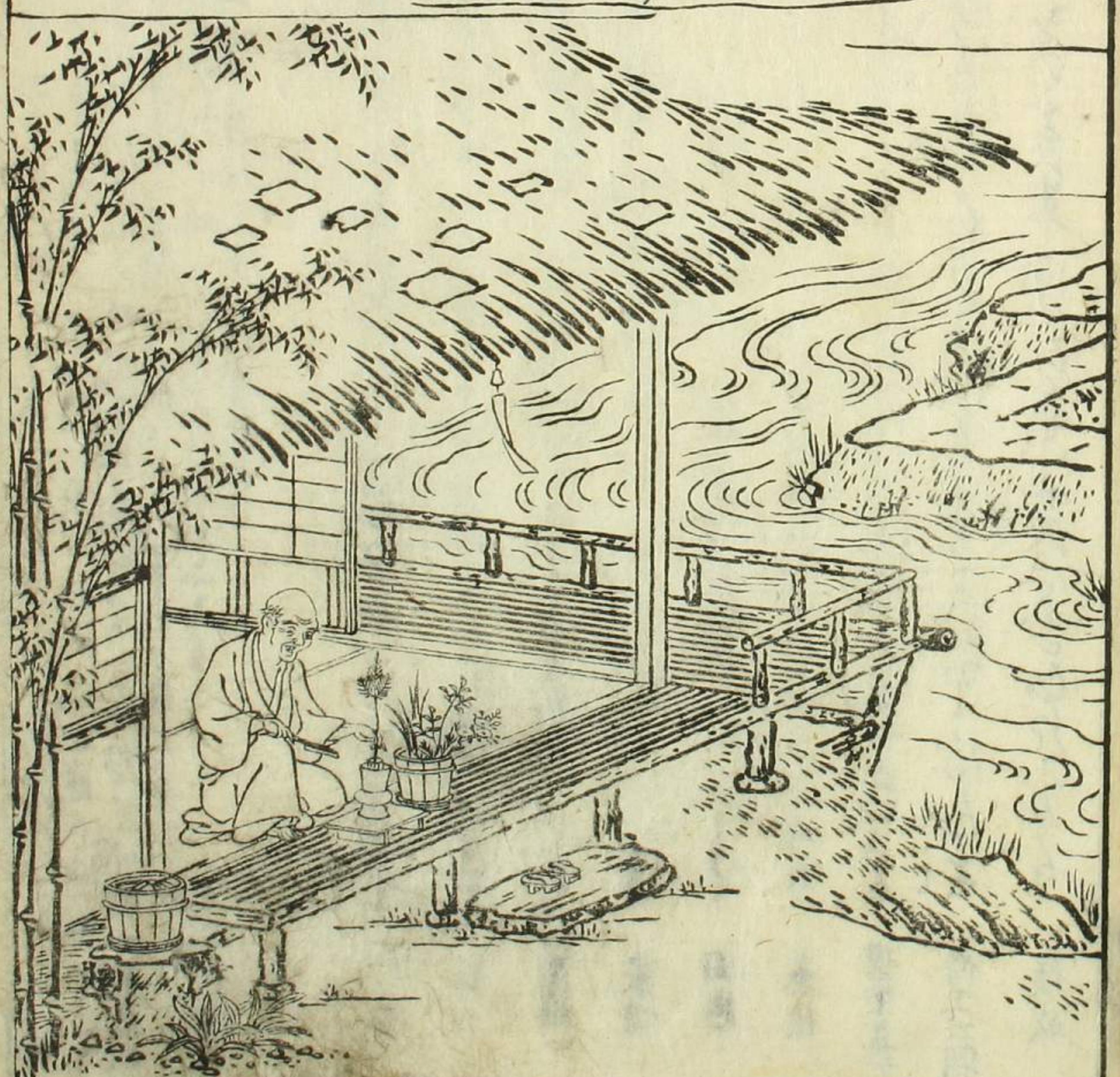
漢子

と病けの津見
かうれ小
とて
夜の神もみ
けさ

玄賓傍都



飢食松花渴飲泉
偶從山後到山前
陽坡軟草厚如織
因與鹿麋相伴眠
詩より其代
うなづみゆき



玄賓菴の舊趾三輪ふの北檜原谷小あり一名玄賓谷

辛社

十町をうちみ日下社下里町山室常に松子落谷幽東にあり店の下樋のあら小あり

みりく人珍稀あり嘗て玄賓傍都ちに源とて白圭と
枕み風と月と共小清うしく世の塵埃に浮くゆくが
解脱の室門にいたりたり拵け傍都と姓ハ弓削氏河内國の今
釋書山階寺の止事うる智者うりタルと世眾厭ふくと
文小寺院のまつり伏奴ナビニシ海川のやうり小僅うす庵
とひをびく住たり桓武帝の御時代半生をもてて強小
やうれど遙かとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
されとも本意ううだありひきよめ其後越後のううだ
たううふ小波一守ていをセトキアリナウノミテ帰て
のぼうありふそよくみとくとく對面せんともひく序アラモ
とくとくれどかの月日ひづらもあく身と隠されとくとくと
發心集

二

三輪崎

三輪崎 佐那のつらもあすなはくとく

夫本

二 痛き崎夕塔を村すを佐那れなりに聲ぞいざ定家
倭法記曰三輪の町伏呂もあすなはくとくとくと
二輪の崎とくとくスレをにふうり流ゆく小溝あり土人をね伏那の
あくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
佐野波井蛙抄曰佐那の舟橋又ハ佐那の仲川瀬絶くかどくよろし上那
國うり又佐那の岡とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
源氏お語小葉を將うれぬふ小よし御称をやく所に二糸のとびの
やうりに大おひと志のびくちくとくとくとくとくとくとくとくと
やくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
びぐるすのとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
じぐるすのとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
月小り佐のやうりの林の夜を高わりとそも治やせん 建國助

新後撰
新拾

宿もうれこのわうれこのわうれこのわうれこのわうれこの
時を佐那の傍りふのと聞人をうるをのうん師兼

千首



海柘榴市金屋村より町なり東から海柘榴市也源氏玉尊巻云誠かくあり
タれども我玉の君とて御せとすんとまほりはを
いもといふ小市日といふの時をうりにいけるもちもせきくこの内
タニ畠日くれぬといそなもくさあうのまもあくめいで
いそなせた中くいとふあもくへくて畠

枕まふ云はぞひら大和わすある中に初瀬ふゆのふるくに
そこふとゆりたる観音のはげあるやあくんことうり
能因哥枕云海柘榴市はぞの市ともいふ
本市とゆふ土蝶波の海つゝすすり海柘榴市と別所より
林逸抄云初瀬ひつせゑの木つぞひらふりうて御めのゆふと公用意
もるのふそそわくら小右記曰正暦元年九月八日長谷寺すふすくく
の附林市小つてりく拂明燈はづめ弘土器がどととの拂堂はづまにすくして
楓浦次被一布丸拂明万燈はづめあけをひいと

紫シモツ海柘榴市金屋村より町なり西から海柘榴市也日
海柘榴市金屋村より町なり西から海柘榴市也海柘榴市金屋村より町なり西から海柘榴市也日
志紀御縣坐神社金屋村小あり志貴宮と称す
石城瑞離宮金屋村の西南初瀬川の南小あり欽明天皇御次石城島アリ遷アリ金刺宮金屋村小あり今敷島アリ一郷の不あり金刺宮トシテトヨタニ日本紀アリスヘアリあり是欽明天皇の内裏内裏のねうりとて今田島アリ竹原竹原アリ其内アリ小祠アリ
瑞離宮欽明天皇瑞城瑞城アリ大和國の名所皇居アリ崇神天皇瑞城著小日瑞城瑞城アリハ雲浦抄曰大和國ト云
掠人皇三十代欽明天皇紀元年七月小都次倭國石城郡石城
海シモツ小都次倭國石城郡石城
世尊滅後一千五百一年といふ

志紀御縣の倭國倭國アリ坐とて海柘榴市もあれ
大和シモツ大和シモツも志紀御縣の宮志紀御縣アリ坐が首シモツとて旁シモツや脇シモツとてん
志紀御縣の宮志紀御縣アリ坐が首シモツとて旁シモツや脇シモツとてん 家隆
瑞離宮瑞離宮アリ社の西シモツアリ 崇神天皇二年小都シモツアリ 瑞離宮アリ

源川院

新古今
あめくやうあらの
まくはりより
せんざく
らむりの月



儀城嶋高圓山

龍谷村小あり

續後撰

志見嶋や高圓山の松風ふくわりかな寒さがり月かけ

讀全篇

宗像神社三座外ふ村小あり今春日と織を

鳥見丘

外ふ村の上東の方にあり是より宇陀郡萩原村至焉より上古もとより

饒速日尊河内國の上嶧峯より大和國を見の自古に遷坐於昂まれ

跡見橋

外ふ村小あり恩坂川に跨る恩坂山小あり

川合ノ至ア

寺川小入

舒明天皇陵

恩坂村の上あり陵圖考曰舒明帝の陵字段々塚とり

田村皇女墓

高サ七十間根廻百三十六間故達天皇の皇女様御姫女

鏡女王墓

延喜式出此三墓へ俱小

恩坂坐生根神社

恩坂村小あり神名帳及び延喜式出

廢慈因寺

天一神と称し神名帳及び延喜式出

王列神社

恩恩寺村小あり

龍谷寺

龍谷村小あり

治瀬朝倉宮

黒崎岩坂二村の間

大伴白玉女墓

延喜式小出

岩坂井

岩坂村小あり一村皆井を汲小竭せり

嚴樞本

白川出雲の二村のノ皇十代崇神

天皇四十三年天照大神大和國依豆加志本の宮に

カヒク八年以ヒナリタヒ世紀儀城嚴樞之本とも

倭姫

葛木宝書又

土人曰ヒタヒ天照大神

トモヒセヒヒトモ居の如く長谷の町うちの東民館の

内小礎ニワカリ松そり小礎城傍へ半里坤小名の

遺どり伊豆毛村ハ十町を立

坤にあり伊豆加志本の居の如く作り立

近年享保五年に華表次立

近來

享保五年に華表次立

車輪瀧

迹驚湍

車輪橋

俱小

白川村

白川村上方にあり山勢高く聳へ

秉田神社

今白川村と称し

天武天皇白鳳八年帝幸泊瀧其迹驚湍上

金平山

白木村上方にあり山勢高く聳へ

嶺に到れど遙

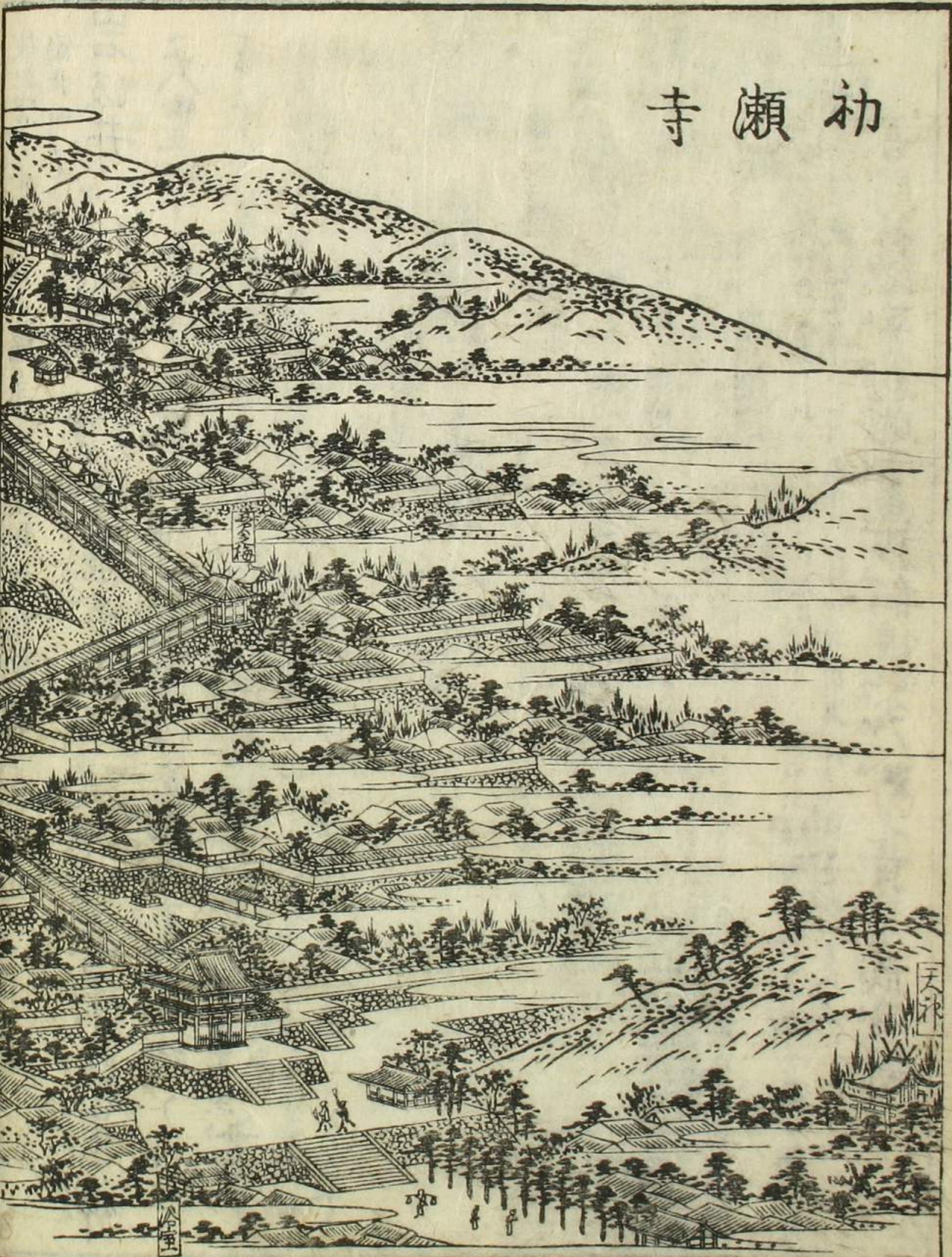
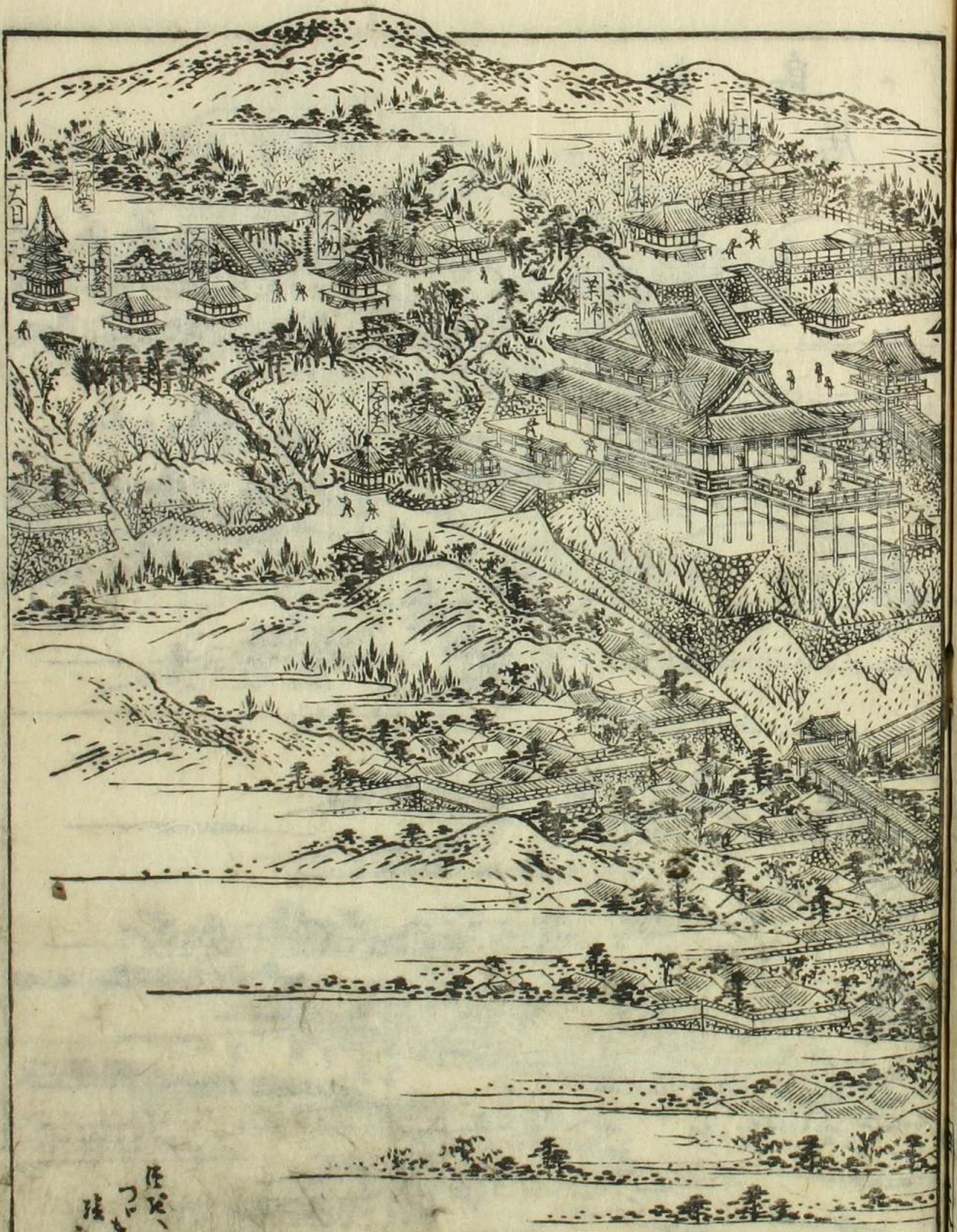
吉隱陵

吉隱村の上方ふあり山中に柏樹多々秋の末爛漫の時蜀錦と翻小竹より

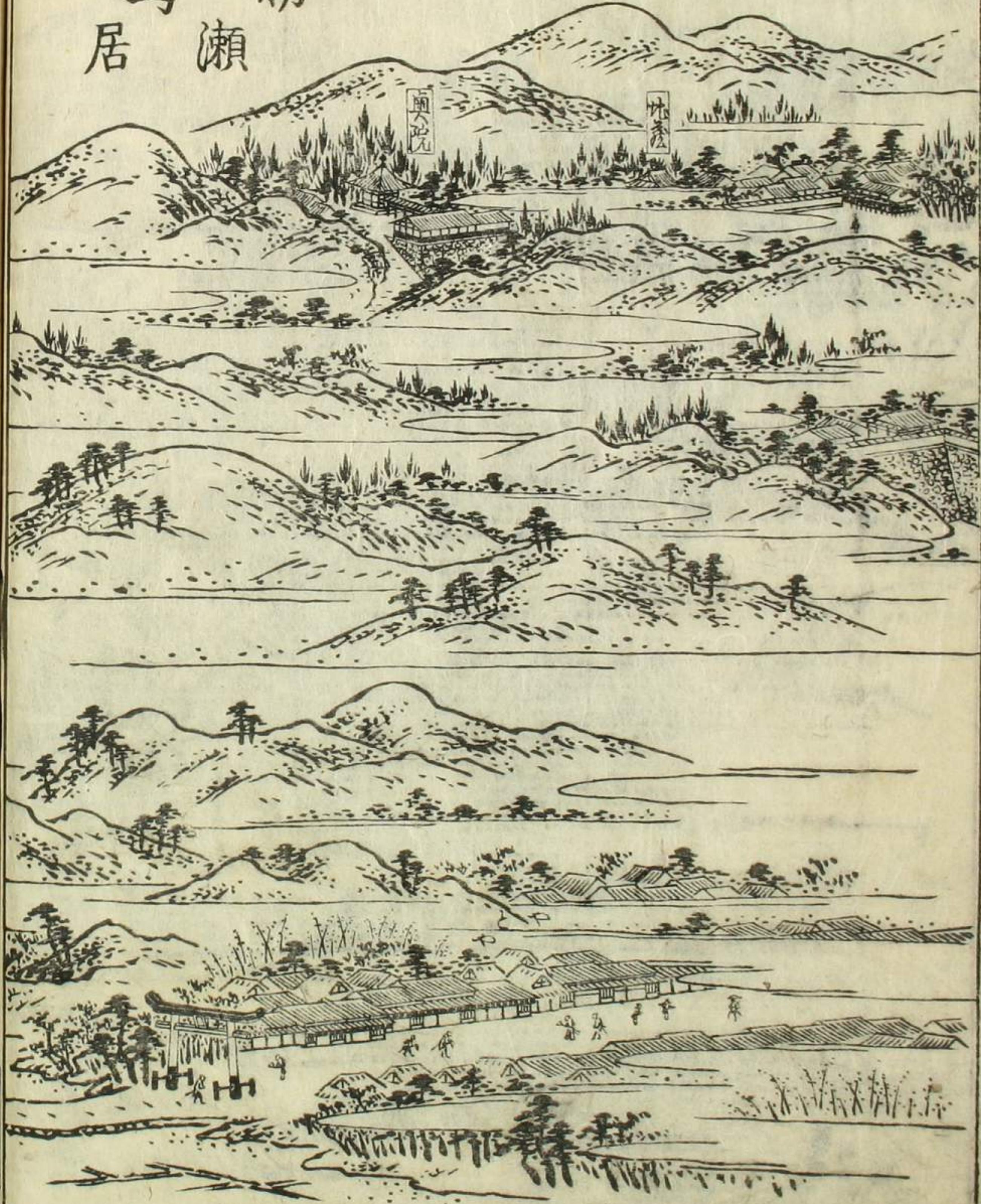
西海波臨し

持統紀九年十月菟田吉隱帝幸於其跡と浪芝浦と云

吾門之清茅色就吉魚張能浪柴乃野之黃葉散良新



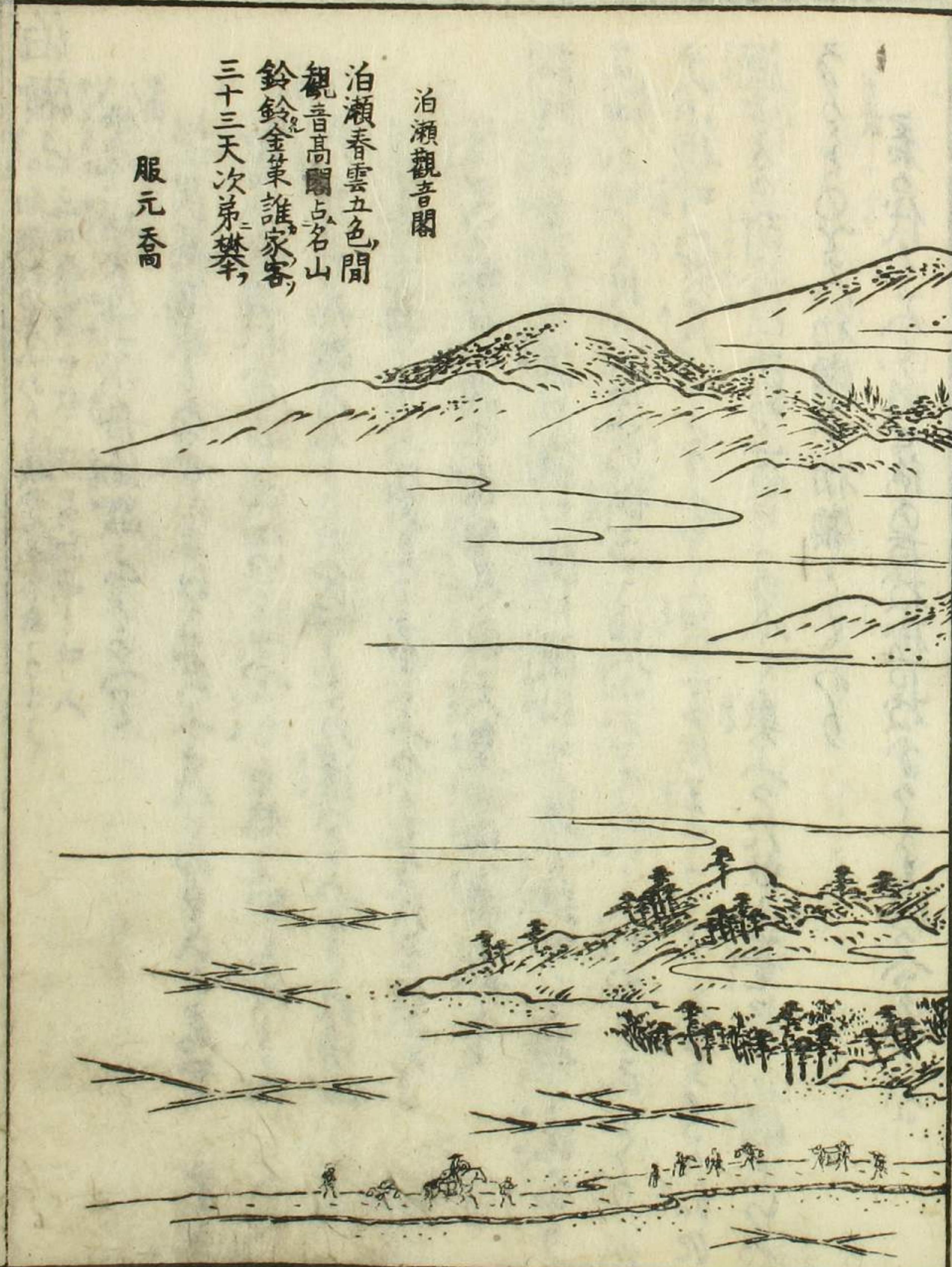
初瀨鳥居



泊瀬觀音閣

泊瀬春雲立色間
觀音高閣占名山
鈴鈴金葉誰家客
三十三天次第攀

服元喬



紅のうら花柳

やのくと

朝日

小初の山

家達



泊瀬川 本郡二流より一筋九平里より上り一里遡流に通れの港より下りふくね
恩寺金屋端豊前がふく
江堤小河城下郡に入

初瀬川古川 のぶ二年五枚年來てくとも重三一年み枚

後金守

日 **泊瀬川** 傍をさや濁らん無往がて秋水とあり人ぞ

日

日 **涼** いそ秋や涼を初瀬川のうらのどの枚のあとうげ

有家

日 **石** そく初瀬の川れ波枕をやくもとのれふけば

後藤泰養

日 **泊瀬女** の白ゆく花へおちもこす氷にせたまふ川のあ

後藤泰

日 **初瀬川** フタノとこそものうらやともほく一年の枚

後成

モ葉 しのせ川まよの枕あわせ小暮づれくゆひもふ崖あはをぞきく

意法

日 **初瀬川** 井でこを波の岩の上とのれすけく人を難面

後藤泰

日 **あま** 小舟初せのを系折をくかくに機のえれあく波

家洋

日 **初瀬川** 岩りとまくじり水のよれくまとてもゆく船

後藤

度

六船

日

日 **海** 壇小舟と度の舟を小舟者をれかく思ひ一考をす

赤人

日 **かく** くくれ泊瀬のよれふくふりきよの金をく妹めいすもあくん 黒人

後藤泰

日 **御集** あ生詠をやとすの波ろより白ゆく花のえそくの

後藤泰

日 **本葉宮** 藤塚義美の足は初瀬小ありむく初瀬へ海にうへまくりあま

後藤泰

日 **親** おぎ足ありこれも二十卷の神社の

後藤泰

日 **紅葉里** 藤塚義美の初瀬の名きとぞり或曰お葉のふと

後藤泰

日 **わの** おりいでぞ峰郭公お葉のふわくりのゆ

意法

日 **とれ** 井の谷のころもタゞくつるやよひれ葉はりのゆ

意法

鍗倉

家集

日

日 **裏** うそともゑをうりこかつて泊瀬倉の影ありたり

相模



古河野急一本松

長尾氏曰一本杉の本堂の東北に松の森古河野界邊に松の北れやとくり木立人

万葉

古今雜詳
しみ（もかくは）はくやをびとんの古のれ様とせの古河

（もかくは）はくやをびとんの古のれ様とせの古河

（もかくは）はくやをびとんの古のれ様とせの古河

後撰

（もかくは）はくやをびとんの古のれ様とせの古河

（もかくは）はくやをびとんの古のれ様とせの古河

（もかくは）はくやをびとんの古のれ様とせの古河

（もかくは）はくやをびとんの古のれ様とせの古河

（もかくは）はくやをびとんの古のれ様とせの古河

（もかくは）はくやをびとんの古のれ様とせの古河

豊山神樂院長谷寺

泊瀬泊瀬より小あり延喜式曰豊山寺縁起曰豊山小

執筆へ遺唐大使中納言從三位兼行龙大辨春官大夫式部太輔菅原朝臣某と記すれ

則天滿宮の御事（其文園の中小跡勢の文と稿）

上求菩提之山高下化衆生之谷深四神相應之靈場一天無雙之勝地也玄武磈礧之嶺蘿苔之松緣徃々閑四時之花以送齡貞於萬代之春青龍流沙之谷巒岳之巖密間々交雲霧之色以運響影於千季之秋朱雀泮澗之谷雲霧施降而緘嶂嶠之岡

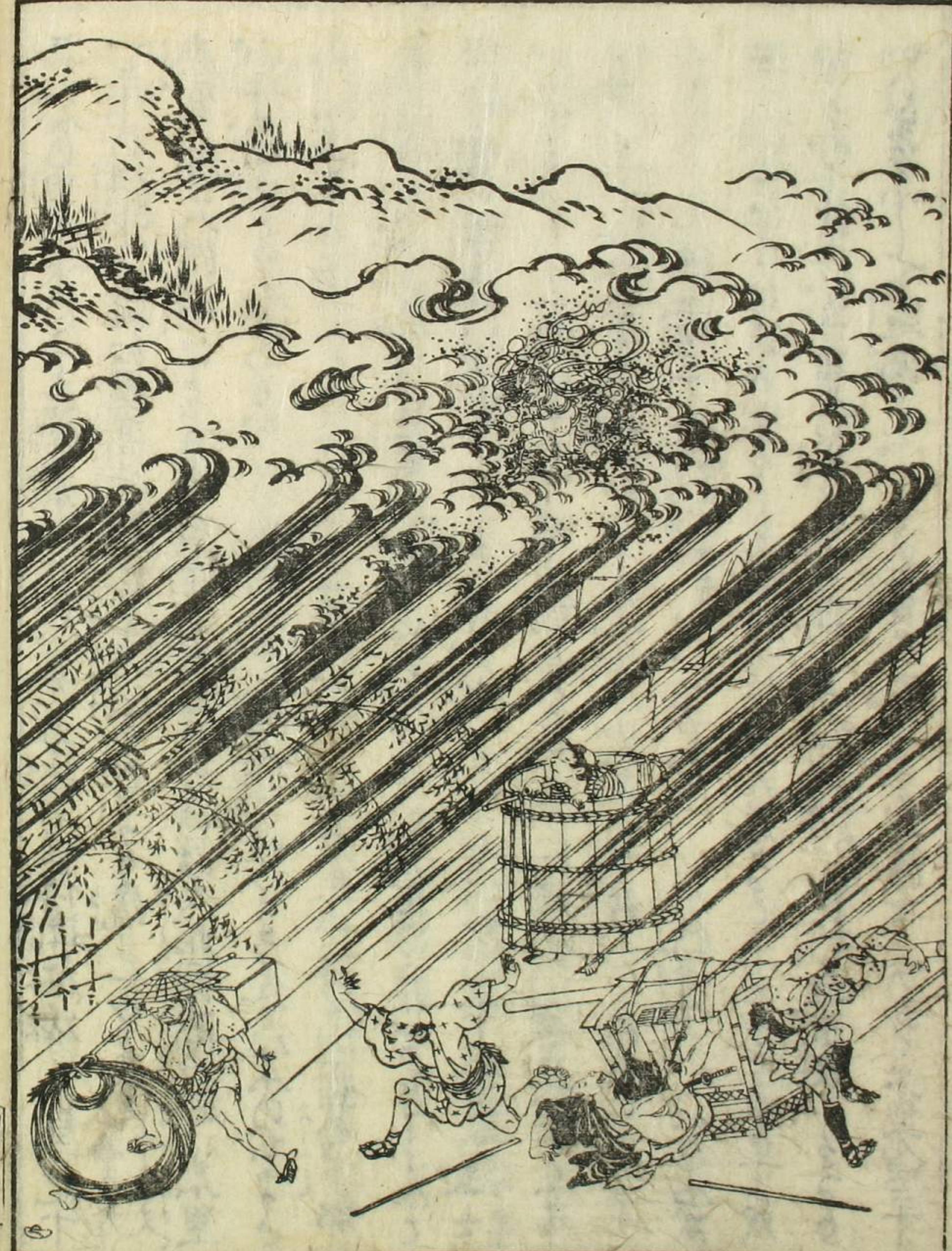
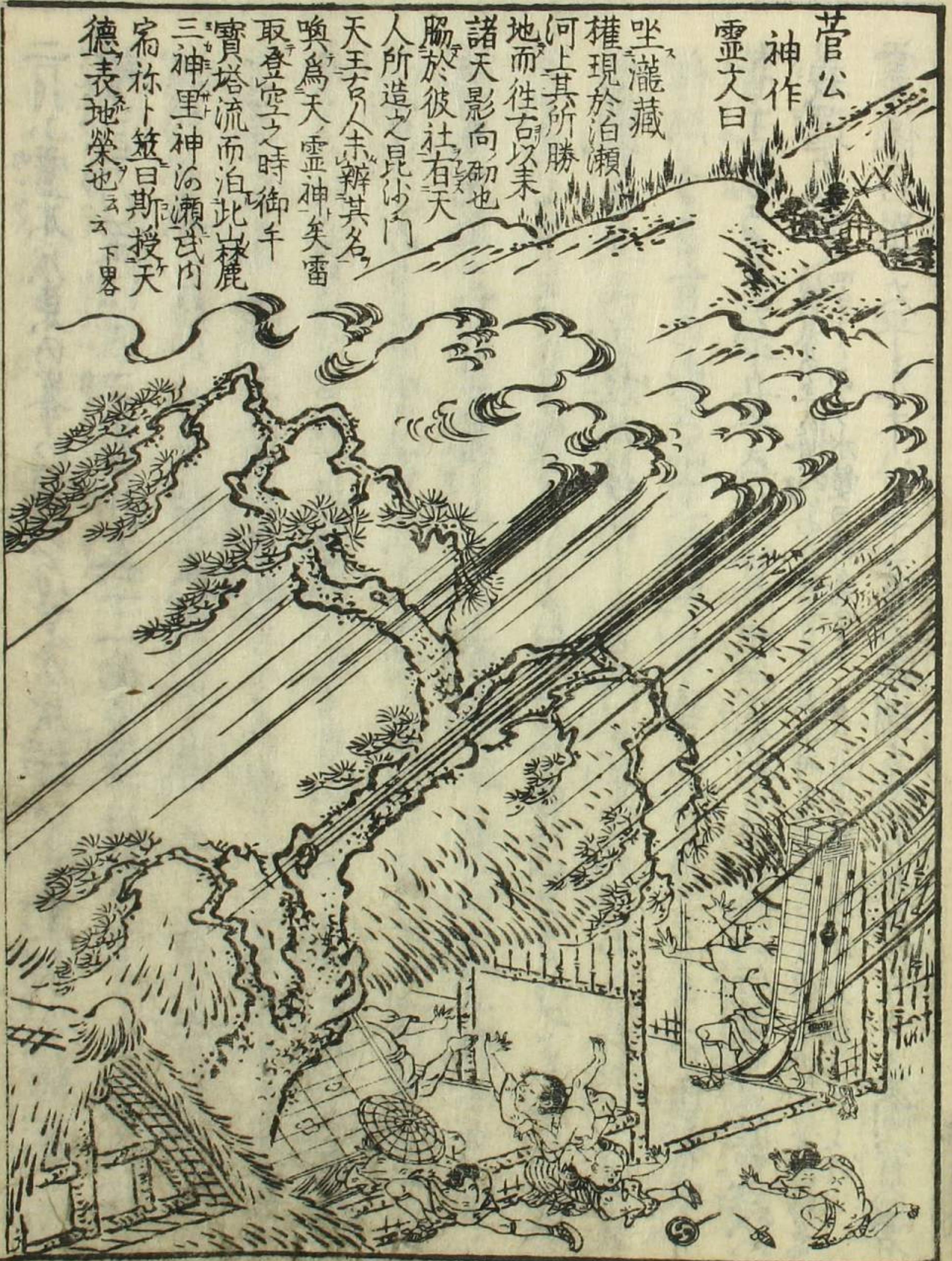
觀似澤池掃溫勞炎々疫氣白虎禮儀之方更無逆賊之行君皇修義人慾自解廻政權儀物情相似定知此山者古仙術行之跡衆妙吉祥之砌也

夫當ふらえ正太皇養老八日小室創又文武太皇の御財德道上人
このれ成造主ともいひ乍堂へ棟作十面觀世音の長丈八尺（拾芥抄
二丈六尺南向とて棟より上そ瓦葺の長廊あり其壁乃下石階あり諸堂（也）上北（也）又（也）上（也）坊舍
学寮（也）直立言宗（也）新義の學傍集（也）小沈坊（也）
紀列根來寺（也）至正元年秀吉公根來寺破却の後寺僧
諸國小流域（也）智積院（也）京都小建小沈坊（也）造立（也）講堂

と號をす舊長谷堂と號をもむひて泊瀬の川上瀧藏權現の社乃
やよりを大人の姓アリ一見沙門アリと雷音寺をさりて小登アリ
佛多の寶塔處てはのアリと三神の里袖川の瀧小止アリ武内宿禰
三神アリ上アリ西北のどみ尔奴アリトヨリ舊名三神少アリ
とモ泊瀬豊少アリモそれより高余歳を經く弘福寺の道明聖人
このれ石室少アリ御きされより里の名少アリて泊瀬寺とせり天武
天皇勅アリカヒテ彼聖人に精舍を造営せられ^今の十一面堂
聖武天皇の勅定ありそ德道上人勅書曰
法道仙人諸人^公とくらま平七年
八月十六日小上棟^一十九年八月廿八日小供奉^セ敕使を中納言
奈良麻呂^{ミタロ}導師^{ミタロ}大寺の傍菩提兜願師^{ミタロ}傍正行基^{ミタロ}この時乃
瑞應本縁起小アリ^{ミタロ}徳道上人ハ播磨國妙宝の郡れん姓ハ辛夷田部名ハ
米麻呂^{ミタロ}君^{ミタロ}天武帝即位に二月廿八日出家を年
廿八當寺驗記曰神龜三年
十二月晦日大修部小住

牛尊觀世音菩薩の德道上の大師通明大德のす

長谷の里小末^{シラタニ}に靈木あり一人の老翁詔て曰傳聞繼祚天皇紀十
一年の洪水小近江國高崎郡^{シラタニ}尾あみの谷より虎^{ヒョウ}と呼ぶ本^{シラタニ}補本長サ
志賀郡大津浦^{シラタニ}ともゆりて七十^{シナフ}と経其後大和國高市郡^{シラタニ}木里
小井門^{シラタニ}アリ^{アリ}アリ^{アリ}佛像^{ミタロ}大洗アリ^{アリ}木のちすと
小井門^{シラタニ}アリ^{アリ}死せりけ里小千余年^{シラタニ}大洗^{シラタニ}周圍葛下郡
に出雲^{シラタニ}に大あゆ^{シラタニ}小法努^{シラタニ}勅書
大備とくアリ十一面の像^{ミタロ}と洗アリ^{アリ}と
同郡當麻里^{シラタニ}アリ^{アリ}とも大水^{シラタニ}も死せりけ新小千余歳^{シラタニ}勅書
半年
大經^{シラタニ}大智天皇紀七年城上郡長谷里袖川浦^{シラタニ}捨^{シラタニ}之千余年
と経^{シラタニ}大智天皇紀七年城上郡長谷里袖川浦^{シラタニ}捨^{シラタニ}之千余年
あ^{シラタニ}と^{シラタニ}德道上人勅書小
少^{シラタニ}修^{シラタニ}少^{シラタニ}德道老人のあ^{シラタニ}り^{シラタニ}行^{シラタニ}く^{シラタニ}の靈^{シラタニ}安
里^{シラタニ}少^{シラタニ}アリ^{アリ}佛像^{ミタロ}化^{シラタニ}少^{シラタニ}年^{シラタニ}
経^{シラタニ}ある夜の爰^{シラタニ}東の響^{シラタニ}に^{シラタニ}性^{シラタニ}あり^{シラタニ}毎利益^{シラタニ}表^{シラタニ}より
かのま^{シラタニ}少^{シラタニ}造^{シラタニ}佛^{ミタロ}少^{シラタニ}の告^{シラタニ}不^{シラタニ}蒙^{シラタニ}り^{シラタニ}後^{シラタニ}の如^{シラタニ}生^{シラタニ}老^{シラタニ}年



二月小靈木从東の峯に引ひてせ店へ縋びく聖朝安穩藤氏
敏昌乃至法界平等す利益十一面の像とはうきく今懇の乞
我願が感へるひくこの靈木ちの御心佛とすゝみ常に行はつ
元正天皇即位年七月房木をこの位まふるの家をうち入る者
全く汝君に伏の教との思ひあらうや聖人言ふ佛法真癡
只君は小ありといへまくえ正帝小奉へまくそ耶武帝小奉
神龜元年二月一日宣下わづ香稻三千束伏官作の料ふり
やくもひたゞさむの傳ぞうへ同六年四月廿日うきて大和山内の
西國役ヶ年の正役伏おひへうり拂志本の加持あり且修行の道意
律師さり二旨のあひ小十一面觀自在菩薩の像さりの巧匠誓文會
誓主教さり大平五年八月十八日毎眼供奉わづ導師へ行基菩薩泥彌ヘ
義運大德伏供奉の年鑑法あり歎書共二卷尔神龜三年三月成就とく同井公卷尔神龜四年とあり水鏡曰神龜四年と云此遺傳師咒願師口れもうづば
靈像石坐大平元年八月十五日の夜瑞夜あり勿捨くそ金剛寶磐

石坐伏うけく外ふわくらく坐方合へく足跡の穴ありそ像の脚足
少えりあひゆがめ板モ十面の像伏並せりこの石小枝あり一枝是
より一枝麻伽陀國佛正覺の寶石伏並せり枝補陀洛迦大悲の坐石うり
タクとそげ寶石の龙脇小龍穴あり天竺無熱通しの事已上本縁起大太意
登廊當ふ驗記小曰一條院の附時宗良も日の社司小信近とくあり正預中臣信清の男兒眼病とりて瘡伏並せり大悲にのり下伏並せりを
建立せしとす

長谷寺觀世音菩薩の住吉物伏並せりのとあるの伏並せり
ふうくふ右邊伏並せり馬頭丈人の尼女伏並せりとあり伏ひ
タクとからふをかざりもあひ伏並せりかー吉体大食の野馬臺の文伏並せり
けりも江讀といへ書にのせて下伏並せりとく

再興朱雀院天慶七年正月九日伏並せり大勢の像へ煙とうさせくも一月も頂上佛の
諸堂炎上觀音堂伏並せり後一條院正慶二年正月廿七日觀音堂の崩落伏並せり火
法事伏並せりありの内伏並せり後已上當ふ驗記小曰
百練抄伏並せり長慶二年三月十七日長谷寺塔并僧房焼亡伏並せり

驗記畧曰後冷泉院承業七年八月廿八日炎上頂上佛の面菩提の枝葉の中を空をねひて



百練抄曰永美七年八月廿五日燒亡觀音像爲灰燼
慈鎮錄曰永美七年十月造佛の附の佛面从佛身中小納入金丹深坐と圓白丸太行
以下の拂奉加殿の御皇后宮鐵肉慈王家法勢大僧正ふとあ附せりより三喜
二年八月十一日供奉あり儀師法勢大僧正明尊泥額へ權少僧都因縁讀師へ權少
俗部長守すり

百練抄曰天喜二年八月十一日供奉長谷寺

靈驗曰堀川院喜保元年十一月十三日觀音堂經藏鐘樓坊舍燒失次日觀音堂宝座
炭灰の中より炭灰放こと二時もうち人々忙しく炭灰分撥僵死を頂上佛面仰
不焼して在り

慈鎮錄曰慈德年中に觀音堂昇廊再建あり其外八年と

経年未だ三十余年と

慈鎮錄曰承元年に供奉あり

慈鎮錄曰順德院建保七年二月十五日火災上同佛宇

美久元年四月十七日より灰炭の中にありて身の如く仏額半面左右の掌ふと仏身中より火出たり
より眉間に身精の内より招提寺の舍利一粒伏こり是を法阿彌陀佛

石の舍利也

興福寺畧年代記曰弘安三年長谷寺炎上貞治二年長谷寺供奉明應四年十一

月十二日夜長谷寺燒亡同立年八月十五日長谷寺斬始

護法善神

脇小坐

靈驗記曰元慶五年二月大和國十市郡土師時躬

とひへたりとの子と共に小當に糸籠

其子愚小鬼後一刻引

て無事

足馬頭夫人より下りて後のみに位

護法岩神

とひへたり其名と大唐國第四皇后君嶋女大神といふ者

宋朝陽列穂積郡小ありて此より勸請小應せり
其驗少虎皮の出現すア斯故我主向と示しゆる
寶也其寺也

拂りと書と

白山権現

當山靈驗記曰けまの阿闍梨行田といあり加賀國白山

小行田に甲斐國八代郡より移來て男に権現

象形坐しと神託あり又一鏡花來りて阿闍梨の夜行神

法あれりすア禄二年七月初日午の刻の生えそれより當山小寺

同月三日小社が建つて有り

西北の隅其夜長谷の山の北の木倉
あらわし三国竹記

蓮華谷

ひづれ小角住ゆ人化あらかに勧めの爾かにひそむ

小行田に甲斐國八代郡より移來て

象形坐しと神託あり又一鏡花來りて阿闍梨の夜行神

法あれりすア禄二年七月初日午の刻の生えそれより當山小寺

道明上人廟

驗記曰今主安養院

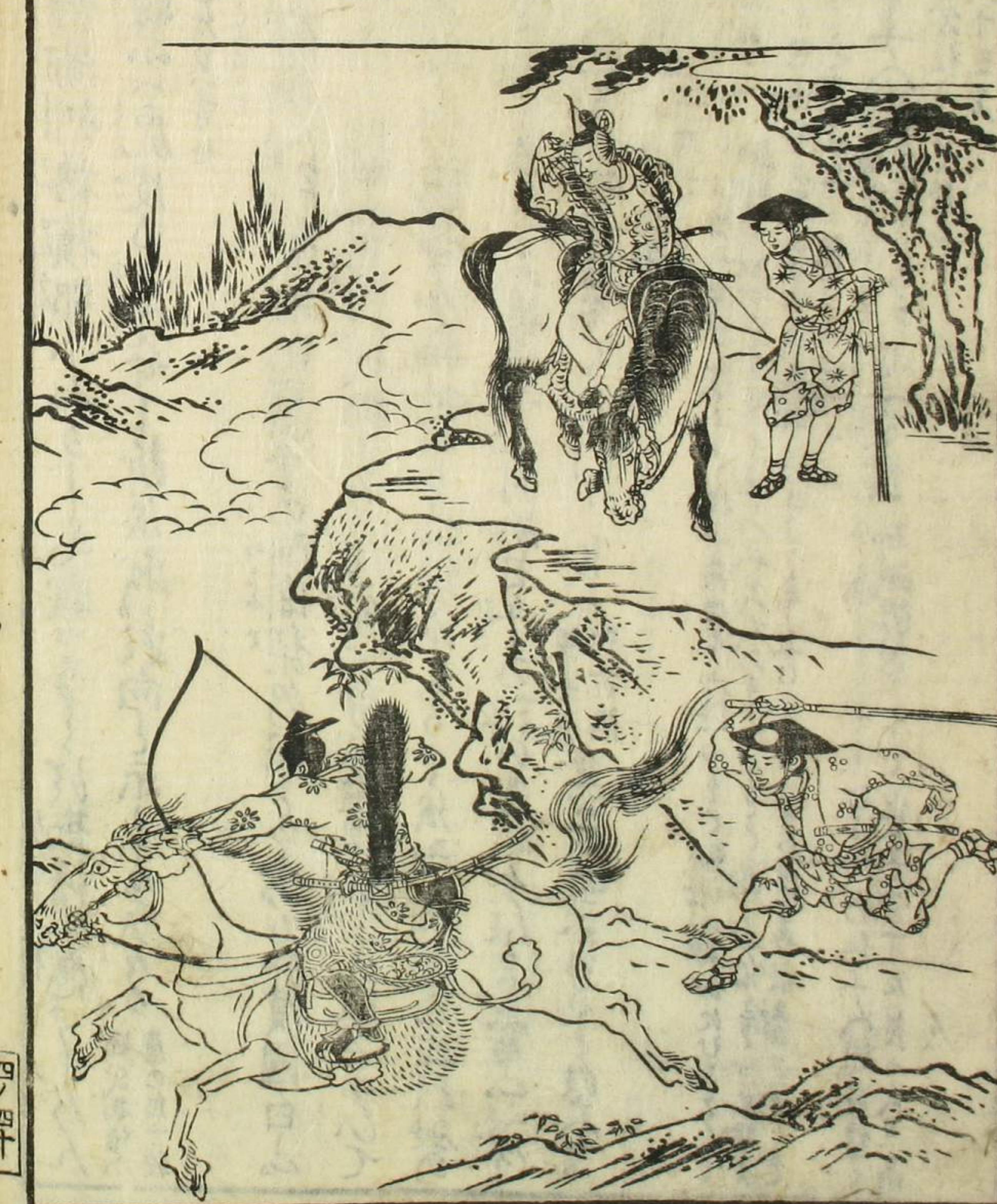
聲念仏

修る

子八十九方



四ノ四十



藤井坊

今廢
長谷寺佛堂五十首

長谷寺

夕時雨の下の川つゆ下瀧つゆも冰ひく薄うすき乃のしきお

正徹

別院長勝寺

今廢
院宇多天皇勅願災福之院の修造と延暦帝安平の御代り大般若の像三十三身の像が安置ありけふの二年の間の間の不

貫之梅

長谷寺圓廊の中ほどのあり紀貫之幼少の頃に初瀬小住る伯父の玄井坊

淨吉の方

十四入峯さか小郡こおり上京じょうきょう朝庭じょうていを仕つかそのうち

玄井坊

へあられ小幼少の時被重ひごん梅の枝えだ折ちぎ斯定宿車と

淨真

やされ梅と人をりて

古今
貫之家集

花

小もちよへえ香小咲さわりのを植うえん人乃のむもくえん

淨真

與喜之大神

一名三燈萬といふ當社の御鎮座は朱雀院御宇小初瀬里

神殿

武麻呂むまろとく一生不祀酒肉しゅにく不享ふこう不斎ふさい一當寺に住する御子

久宗

とく仏道を信する俗人ありたり太慶九年六月十八日武麻呂観音

堂小園夜よせうらふど爲なみたる爲幅子わがし狩夜がる老翁ろう忽捨つばと取と取とと

我わは足あ大感驗かげんの神じんへげふに住する大聖だい小值遇ちゆうせんと名なすと仰あひれ

ししじぞ爰あをさんさん小たりそその月つきの廿さん日ひを酉金酉金にうこうこたの圓まんす

泊瀬川はくせがわの下武麻呂むまろ家の弟おと小六十歲ようりの客俗きやくそく石上いはに坐す居ゐ

うり足あ則そ爰あ小こ一人ひときり武麻呂むまろ恠わすとどとりあくまくま

ああぐぐととりり大だい法ぼの相あ似そ休やすひひ小こ語ごととののややせ

ゆ人ゆ武麻呂むまろ道明どうめい上人じょうじんの廟廟ああづづ追お付つけ神じん酒しゅ休やす勸すす免めんととるる瀧藏りょうざう權けん現げん參さんとといいむむ一

斯すく御堂ごどうに詣まいひひ一い念ねん誦のりりにに夜よ半はんのののの爲な大

うりをうりととりり客俗きやくそく休やすてて遂ついとときき腰こし後ご老翁ろう永えい是ぜ是ぜ

右う大だい臣ぶん正まさ二に位い天てん滿まん天てん神じん苦く原はらのの事ことへへとと小こ居ゐ休やすてて大だい聖せいよ

值ぢ遇めぐてて二に想おもの苦く免めんととるる瀧藏りょうざう權けん現げん參さんとといいむむ一

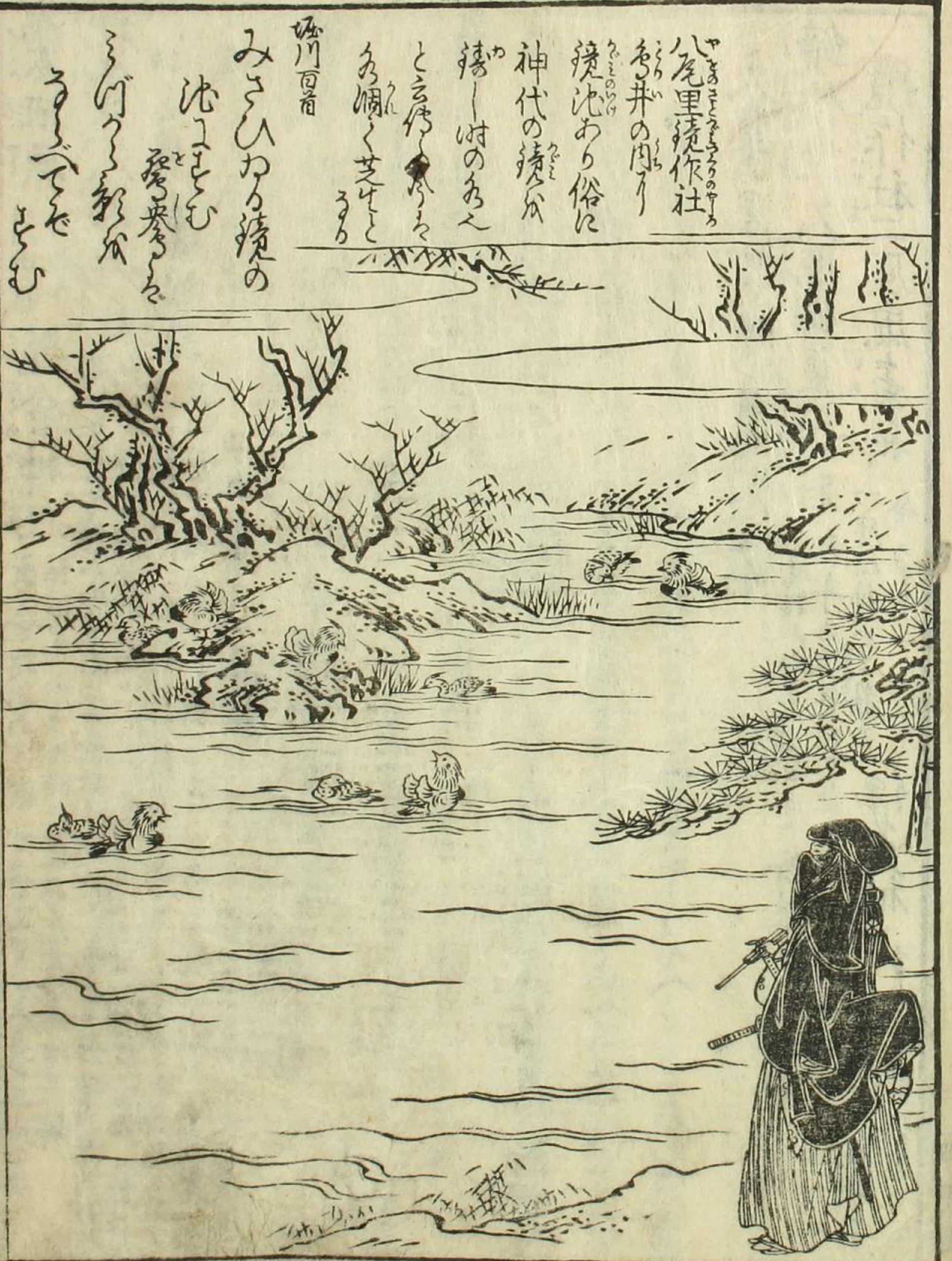
うりけうりけ山さんの地じ立たく初瀬はくせの川がわよよに居ゐせりせり地じ佛ぶつ法ぼ相あ應おの地じ

鎮ちん護ご國こく家けのの心こころ化か利生り瑞相めい金剛こんごう不ふ動どうの寶ほう座ざ之の今いま

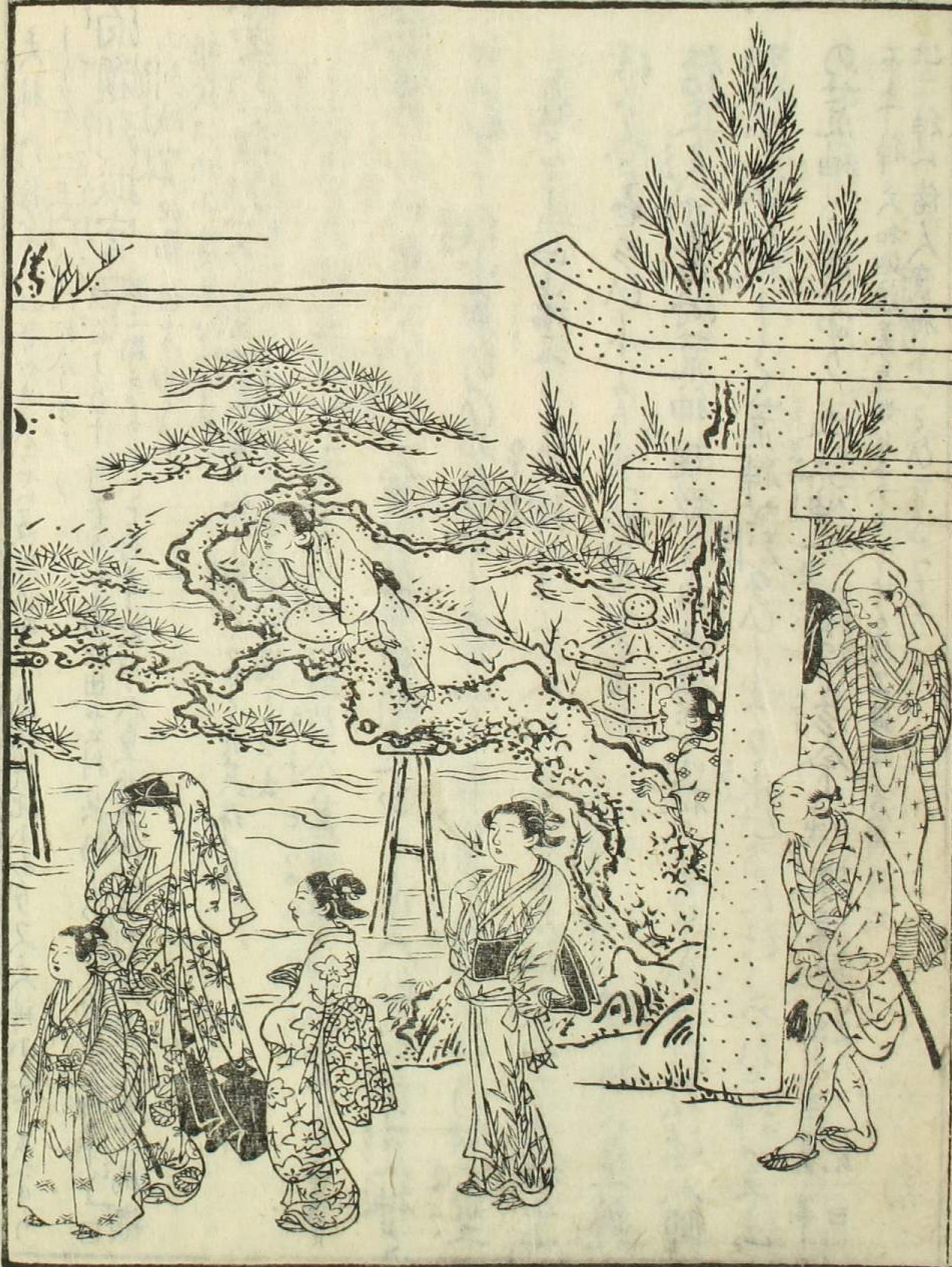
より君小のとまろ永のとれ地とあり往々車來け地を因蔓
陀羅峯などとよれた所小竹とあらず小本のねありかの所アリ住
リカヘトト仰られとぞ天滿大神即玉小素ノ一俄小雷神に現
リねの本小至りかへ龍藏權現の言に断惑修善與喜地よりとみに
より與喜ふ天神と號け其トトとくは與喜里と云。此神の御物
タマツハ武麻呂志のびくはけりぞテ足治陽北野天滿大自在
天神少く御座之初三年も神祠もトトと只松の本ツリにて
社とトタクニ市く神託わく天暦二年七月武麻呂寶殿
達く祠主也三国傳

例祭ハ毎年九月廿日ノヨリ御内の氏神トニ初ノ當山不前向アリ。体火
神輿火大船の筋アリ出テす今之熱門乃希ナリ武麻呂家
神供族体ノ今之二王堂あうり是武麻呂ニオバモリナキアリ。一所院
仁王堂法事ノヨリ天神御神向の御火アリハ相坂の道アリトシテ
直通火神事内今之登廊されアリ武麻呂家ハトミ桃子石屋を有
リ公役故免の地也。

夫神浦後伏ノケモ石ノ長谷の町の東頬北小ありス天神小ニトスナリ
一石川三王門の内に今小あり
泊瀬河城宮城上郡後谷より十町ぞうりあに出を村共近トテ帝王編年ノ日
の列城宮に昂位アリト日本紀曰人皇廿六代武烈天皇元年泊瀬
都众アリ地小室アリトテ
笠山アリ笠村小あり巣巣ノ笠の如く周ノ名トシ其那ハ
万葉朝茅不とアソ藤坪伸曰笠ム大和國ト云云
雨零者將蓋跡念者笠乃ム人爾莫令蓋露者漬跡裳至齊弱
鷲峯と竹林寺笠村小室不比等の創建ありとい俗小室の荒神と
いひて復小角りひか經ひ一靈アシヒと畏ニ藏未朝乃付天室
と後うの中落アリ大落アリ天人所造の笠瓜將來ありくけ宗
ほくをセウヒトヨリ笠の名ありアシヒ荒神アシヒ良辨
修正系龍の附荒神現形アリ小板小室アリ其後弘法大师
かの累像分模アリ荒神アシヒ一坐アシヒ水アシヒにほくを拂笠山
の荒神アシヒ三座あり土祖神アシヒ一坐アシヒ澳津彦アシヒ一坐アシヒ澳津姫アシヒ一坐アシヒ舊事
を年神天和迦流義豆娘アシヒ妻アシヒ生子澳津彦與津姫
二神アシヒ諸人竈神アシヒアリ



四三四



栗木桜原

引田村

瀧倉神社

游倉村小あり瀧倉禮堂の今昔お詫小出

比賣久波神社

城下郡唐院村小あり今守社

糸井神社

結城市場村あり

今喜日と称す

神名帳出

屬風里

道のほと遠く新邊と通じる所也直遠

常に属風里よりけ名あり

瀧と/or其中宿すより供御奉る小

遊部川十宇耶より瀧とく廟院川

遊部川十宇耶より瀧とく廟院川

小入

富都神社

富本村小あり二宅原

宮古村

門村小あり

演聚

そぞのうんと漏のひとあすて宮古の森のふとかゑを 純家

盧戸宮

宮古黒田二村の間都杜小あり

寺川

十宇耶より瀧とく八屋松

法樂寺

黒田村小ありむうへ伽藍魏

本堂講堂地藏堂左など

本尊の勝軍地藏尊秘佛

之

けき孝靈天皇の陵地すとく聖德を子の同基

とく施主とく

孝靈帝の陵葛下郡片丘にある延喜式小石碑とく另の孝靈

天皇の黒田の皇居の跡

鏡作坐大照御龜神社

ハ尾村小ありはきり七翁村の氏神

八屋松

八屋松

境作社二座麻氣神

一座は神天櫛ノ一社

余り已上兼俱記

余り已上兼俱記

余り已上兼俱記

石凝姫今ハ建燐ア金谷の清秀者石凝姫今ハ天照大御神の岩戸にありセテタハ時夫の唐久の洞穴よりく想像の鏡かわゆひー神より已上古語拾遺より

鏡作麻氣神社

小坂村小あり今

韓人池

古村岩戸の東に池の尻とくの家の田地ありとく韓人池の跡

今後池の跡と云ふとまし

日本紀曰韓人池ハ應神天皇七年九月高麗人百濟人新羅人等す

作く始へらぬひより韓人池と號せり天皇ハ高市郡小都セテセ

カムク輕條の明宮にあへるゆ

新六店

かろいのめの宮れ昔よりほりそりてー韓人乃池

五郎太

沈坐朝霧黄幡比賣神社

法貴寺村小あり今大神と称すがも立高村の氏神とて神名帳三代實業出

如來を百濟國より來朝と

法貴寺實相院と號す法貴寺村小あり傳與聖德を子の麻

加藍魏より年々とく頽廢して本堂一字存せり本多薬師

大王廟あり村民小神と

齊宮法貴寺のやより小禿倉あり俗小生五中ね伊勢新宮

如來を百濟國より來朝と

大安ち村小あり

服部神社今波都里神と称す

夫木

むすびのゆくばられ

大和川

やまとくわ

里

ねとづな

中

五と
三と
三け

四四五



坂千池 和志日景り太皇ニセシ月坂千池公造竹堤の上に植たり池を

今田畠とよは堤を十市郡東竹田村小あり

阿刀村里 坂千池の異小わら

相模家集

麻のま小室の店も癪ケ^{つゆ}く深^{ふか}まづくの刀村乃里

倭恩智神社 海知村小あり **大和川** 城上郡より流く倭恩智海西南流

支流

余度瀬都少々度御川といふ

村屋坐彌富都比賣神社 神名帳出 **藏堂村** 小あり今大王と称せ十に村の氏神と候神名帳出

神功アマテハ天皇と大体坐すの合戰アマテハ唯雄大神アマツヒメノミコト西高市郡大領縣主許梅ノ神詔ありくこれを藏堂社の主代立神又大和

社の生雷神より神武天皇の陵と馬姿と狛々の玉器がさるアマテハ天皇のゆりとすらん

スの通し歎可あり是れを本尊アマテハノミコト・ミタゾボリ・則死より出事、公卷アマツヒメノミコト軍に利公清々不破

村屋神社二座 **藏堂村** 小あり十三村の氏神

鞆負御井

神名帳出

續日本紀曰寶龜三年三月鞆負御井置酒と陪從五位

以上小乃ひ文士曲水公賦と者

岐多志太神社 二座神名帳出

支所不詳

久順良義神社 神名帳出

支所不詳

吹上嶺 宇陀郡上萩原村の北に

墨坂 萩原村小あり

日本紀出

小野榛原 萩原村小あり

宇陀川

一名萩原川東西二水下井足小

宇陀野

宇陀の町より一里どり與萩原村ありそれより一里とて北

むう推古天皇十九年五月八日小葉狩が荒田郡

小志^{アサシ}之多^{タマ}ハ境公時

アリハ^{アシカ}と豆衣の池れ不^{アシカ}小集り^{アシカ}それより供奉せられ^{アシカ}そり

諸戸ありひこのことのえんに考^{アシカ}小冠公著^{アシカ}とノリ^{アシカ}警^{アシカ}公

ニ位公令公利^{アシカ}ひら且立位^{アシカ}豹尾^{アシカ}六位^{アシカ}の尾公^{アシカ}一ノ^{アシカ}九^{アシカ}日本

貞觀二年十一月三日詔^{アシカ}源朝に融^{アシカ}小大和國宇陀郡公のひ

アリ猪^{アシカ}遊^{アシカ}猪^{アシカ}三代實錄

万葉

宇陀のれ秋茅みぞのれ候麻^{アシカ}妻小あらく秋茅まごアシカ

草根

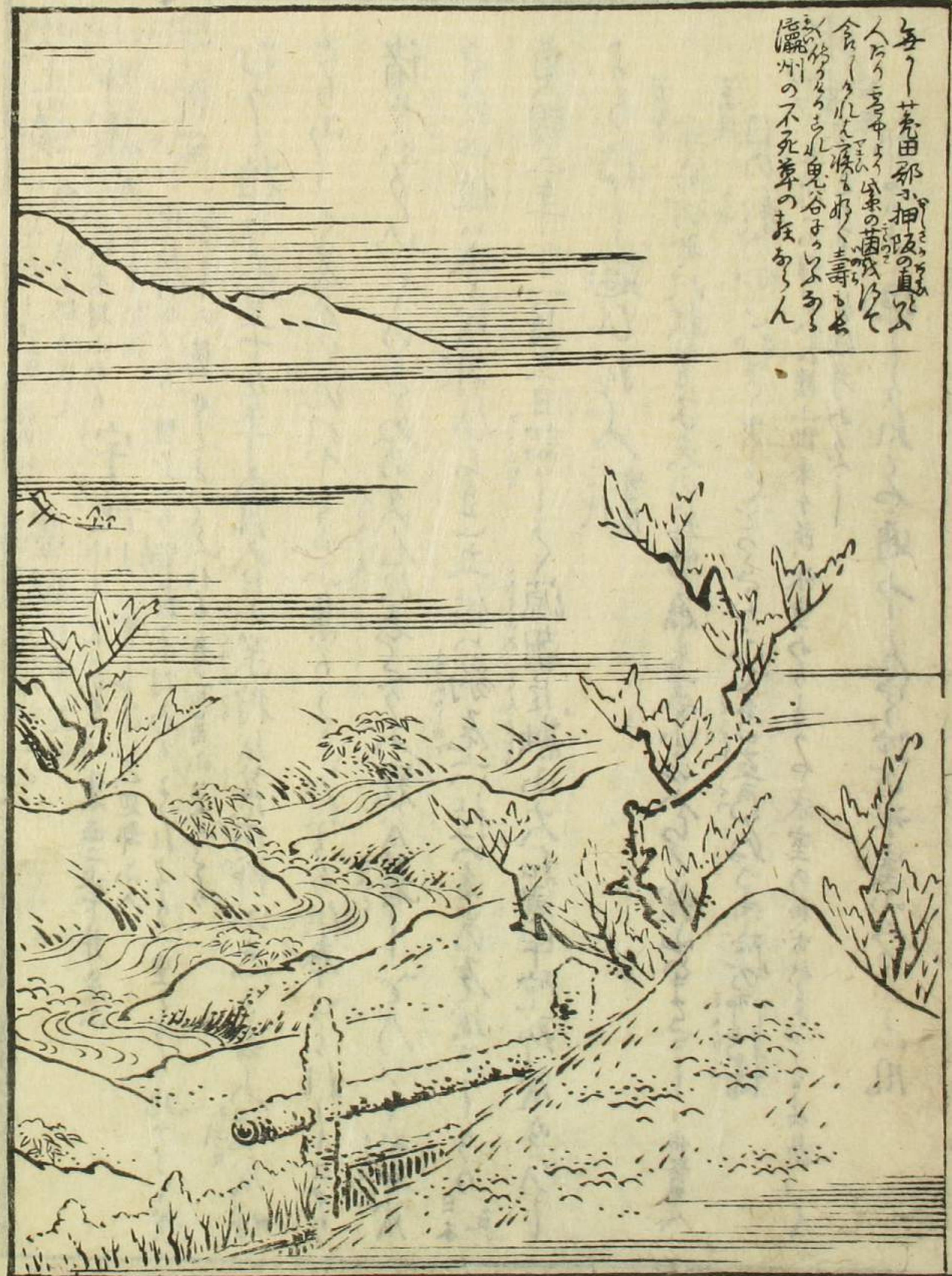
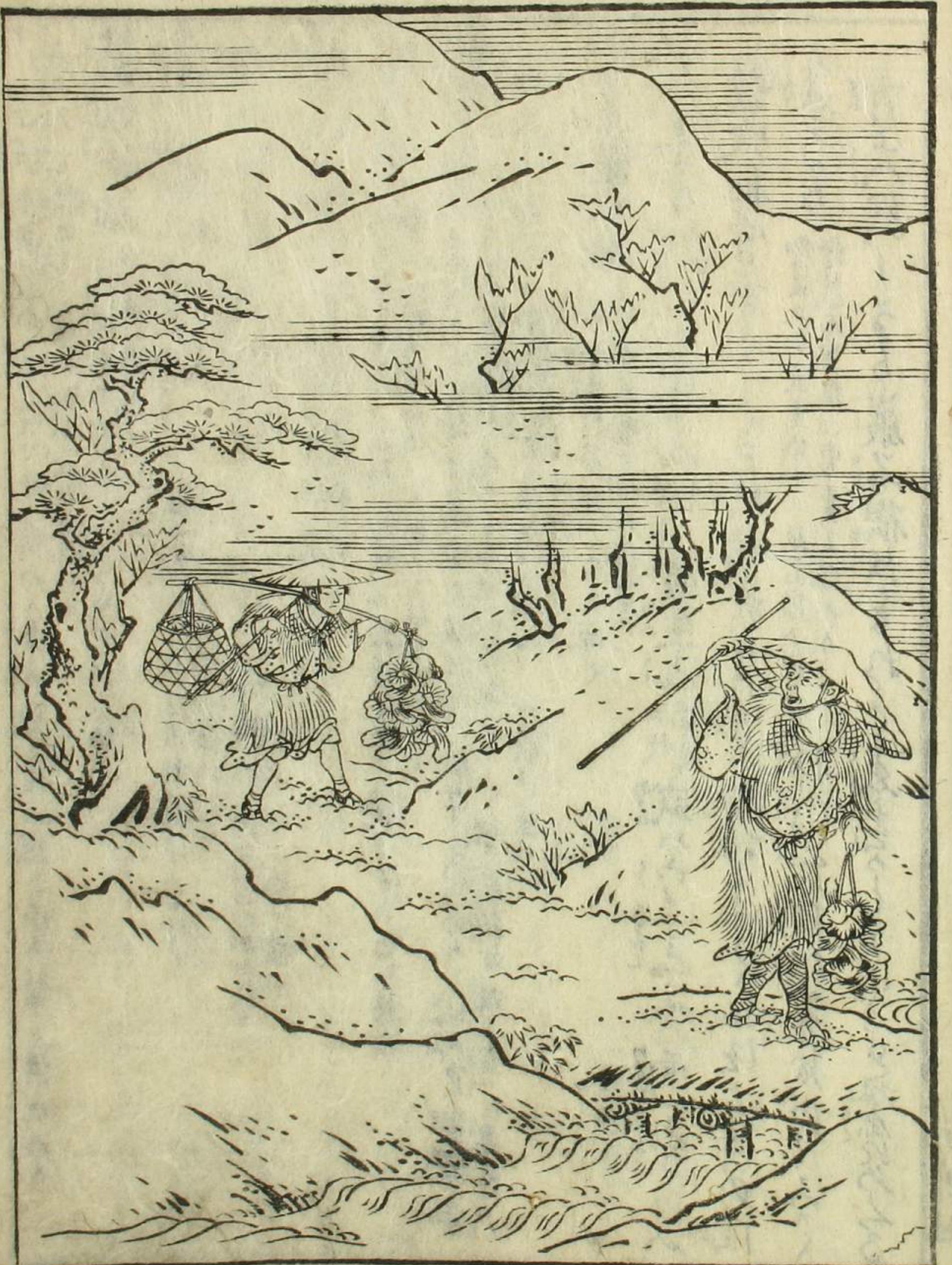
日の敷^{アシカ}かくむく^{アシカ}とくとく少^{アシカ}立^{アシカ}候^{アシカ}宇陀の御^{アシカ}場

氷室

至所不詳大和國小糸余ヶ所氷室ありとく氷室のねあはとども甚断^{アシカ}く

草根

都^{アシカ}冰^{アシカ}冷^{アシカ}れ^{アシカ}通^{アシカ}冰室の氷室^{アシカ}とく風



香水山赤瀬村かありの巔に龍王祠あり早の歲ニ雨が降る南の禁より清水あり

猿田彦神祠

山小あり土人

檜牧溪

赤瀬川小入

石神殿

檜牧村の西小あり

赤人塚

自明村の北小あり岩高に築く

檜木

赤坂村小ありけちの後の名稱耳聲載に出る或曰近ニ須は達也

御井神社

檜牧村ふあり今食井明神也

石神殿

十二社と林を

獄山

自明村の北小あり岩高に築く

佛隆寺

赤坂村小ありけちの後の名稱耳聲載に出る或曰近ニ須は達也

室生龍穴神社

室生村荷坂との氏神也

室生龍穴神社

室生村荷坂との氏神也

室生寺

室生村小あり新に築く故ニ古隆亡

室生山

室生村小あり安明寺樹愛宕門樹等支別あり又人窟護摩窟

室生山

室生村小あり窟並に壺井あり巣聳谷深一ノ谷青巖峰が連する真に塵外乃

室生溪

室生山奥源の精岐より流くまへ

室生龍穴神社

室生村荷坂との氏神也

室生寺

室生村荷坂との氏神也

室生山

室生村延喜式

檜生山

室生村實張三代實張出

龍穴神宮寺

室生村弘法大師の開

基寺

伽藍五宇五重塔十三級石塔小祠五軒

傍院三宇織田常真石塔あり

慈尊院

行者もどして止傍となり護摩修され巖崛も苔のみ

青木につすり巖石樹

木もれきを落さうとこうごうと櫛森にひぐ

ノ浪の音の高めくぼくにあとうじに地小みどりを落葉の秋の雨にぬけ

かとあやゆと橋がとゆけの廬とのまびとをありひよろがよらむと

鶏足の志けこひぶづかくやとこそありしゆれ弘法大師の伝ひ

慈尊院行者もどして止傍となり護摩修され巖崛も苔のみ

もて風を宿り仰と伽藍覺がるくもと落葉もげく宝鐸響あり

て風冷し斯う靈區うとととく昔の人女の高所ともぞく

鎮守龍穴祠ハ釈慶坐室生山に開龍坐年一千日黎河橋がとけよ

容儀體佩宋器麻うる女の顔あくからく慶坐あやととひひふく誰人余まととるそや

と授てたゞべととふけく慶坐あやととひひふく誰人余まととるそや

明法傳とすと名伝あくとどあくとといひ女と是若女龍王うり志を有く

遂小僧らと一ふくと候ゆくなどと就ひを七佛傳受法うくを傳れとて

いとまうとうりうり慶坐の女小坐をと顔うもむかせようどうあくと

やとせらきれをととうりうりゆくとあるとあがもそれなれどやと虚室小のが

市原右のより小松木あらと小丸の長さ丈余丈く又その先あり

是より佛法擁護の神として地小祠ありとモ

御書

味坂比賣命神社

荷坂村主千代山中よりおぐれく掛林

血原上田口村

神武天皇詔にて大孫見猪ちよび才猪

免田縣に居るひ

一ノ名々れも才猪へゆき仕禮足猪をり小應

等小刀

さくがうと攻とてゆく獄ひなれど足猪との間あく穴に入へく

さくふくと令公參ひたり其尾公只よやと斬て下り其血のがと

ぬ正六號正六免田の血原日本紀

委ハ舊事紀日本紀

漆部郷今曾爾

モウ宇多郡漆部里に風流の女あり花顏輝髪

一ノ一笑千金の容色あり足と手うちの部内漆部造磨の妾妻にて

七五死産り家困窮日本記

等小刀

日々沐浴日本記

身公潔

綴と終日毎に解よゆく菜草公

常に家と漆く糸竹公調日本記

端坐に唱

含情怡

天上の客の如

難波長柄豊崎宮

孝德帝甲寅年秋の風流の性質神化感應

春

野菜公採小仙草日本記を食ふて天に飛去了誠小知顔魯公碑日本記

日本靈異記

紫虛元君南岳夫人ともいひは也日本記

異記

曾爾川今源河あ源河の如大源河中よりゆく曾爾日本記

諸村公經

桜井溪今源川長源村小ありひ歌峭壁日本記

本叢翁

屢夙嶽屢夙の如因名日本記

名

門僕神社今井村今井村小あり曾爾谷日本記此嶽今井村雄山嶽葛村小あり一名

神名帳出

鎧嶽

日本記

國見嶽伊賀見村小あり野原の三列小跨日本記

龜山

日本記

御杖神社神木村小あり今葛明神と称を

神末溪

日本記

桃股川今源吉郎郡見の東より

倭國新小太松と号す松ありげ下に石あり土人立候まつて本かくとる松より

日本記

石のみ馬とうりとて狗つる石とし入村の古老云は松も常盤附ある植

日本記

新に中あらへてから可うりとく

日本記

いよのあらへるのさ松とどんとの色たよつてそくる

漆部仙女



八幡祠

山苏那村 小あり

源有綱宅址 下苏那村小あり土人曰常盤宅と称そ支后二年六月

廉枝平六伊豆右衛門尉源有綱と合戰ソ有綱敗死

吾妻野

東郷村小あり 舊名東那

神御子爰牟順比命神社 林次神名張及び三代實祿出

日張

山鶴ふ中に青蓮尼寺あり

鶴山寺を菴と申將羅法如尼の開

籠

地すりそれより傳今く尼の役院

勸行今小ノヘど拵

中將局

模倣右大臣豊成の息女ありしが継母の逸にかゝれておぞりふ

捨

函谷

籠アリ今父をけふよ

狩一ありて不意射面ゆめ故即にうりきひぬ更に厭離穢

士心絶

改名法如尼とやほとに居候ひく紫菴を菴と号

トヤハニ改名法如尼とやほとに居候ひく紫菴と号

飲求淨土の外へんにあこがる

終に淨土曼陀羅とえて往生の素懐

とよげしとへ

西曼陀 羅抄

櫻實神社

佐倉村小あり 神名帳出

岡田小泰命神社 小和田村小あり

朴名帳出

古市神祠

右市場村小あり邊隣 流古川 本郡毛居村小入下品分御て東川に入

都賀那木神社

山根村小あり今半布滿と称シ十三村の伊那佐山

宇陀水分神社

氏神之旱に神と禱る小驗あり

下井足村小あり十村の氏神之林山里

十九年五月廿日守院せ薬病

春日神祠

佐日村小あり 白鳥居神祠 山口村小あり鶴翁祠

高倉山

上ち通村小あり 日本紀出

劍主神社 宮奥村にあり今社屋

雲管

宮山院大藏寺

大藏村小あり葉の栗也と

新里八町

本尊

藥師如來

監

鰐上宮を子のま創つて其後復小角練修の地とせられ

弘法大師後滅天皇の勅

け堂舎と建立され岐嶺城天皇表

の大藏寺

額あり當山靈室の中少佛愛深明王長三寸の像あり惠果阿闍梨より

小青色の舍利が理下弦より拂接より下に現りあり其後不定なり

は該儀のゆが密宗持掌の老法師に付行称に密宗の書に記り第一宗傳持の

秋山城

ねの町東北小あり天文に秋山右近直國の城址

其所に神樂石あり

鶴山
ひづるさん

中將姫
ちゆうじょうひめ



國

大和名所圖會四之卷 尾

四ノ五十三

阿紀神社 遠間村小あり今神戸明神と林と中祠立前あり溝村三十ナ村の
氏神也日本紀神武天皇丹生川上穴瀬ノ天神也抵てあはる
山城ね山の東小あり元和中織田高長公封と云様中に至り伊豆守信武
松坂半坂村小あり

男坂

城上郡の瀬之

丹生神社

雨師村小あり大和志日神武紀所謂菟田川の朝奈郡こうより神武天皇
菟田の朝奈郡天下が平治しての所らへあり當社神名帳出

竹川

新さくらすば海内國と云云祖一 大和國宇陀郡に竹川の流あり
舊記に又えりと云海故に也

わ葉

わ葉ふぞのふう々財竹川の圍のみどりもゑうつゝん

トノケツの傍もひいてひくゆくすあぐく源氏も候小あり

